

習志野文化ホール再建設基本構想(案) へ頂いた御意見

1. 結果の概要

- (1)パブリックコメント実施期間: 令和4年4月1日～5月2日
- (2)意見提出者人数: 65名
- (3)意見件数: 243件

令和4年5月27日
第4回習志野文化ホール再建設基本構想等検討専門委員会 資料②
政策経営部 総合政策課

2. 意見

通しNo.	意見
1	パイプオルガンについて、『市民のための文化ホール』であるのなら文化として残すべきなのではないか。パイプオルガンがある千葉県唯一の公共ホールとして活用、広報がされていないように感じる。例えば習志野高校とコラボレーションができると面白いと思う。カルチャーセンターと連携してパイプオルガン教室や、構造説明会など一般に触れる機会が増えてほしい。 パイプオルガンが負担になっていることは理解できる。難しい問題である。少なくとも習志野市は『音楽のまち』としてブランディングしている。残すにしてもなくすにしても真摯に向き合わないと、虚しい標語だけのだけの市に成り下がる。
2	音楽のまち習志野のシンボルですから、アクセス抜群で収益の上げ易い、現在の場所での建替えが良いと思います。
3	私の子ども達は生まれてからずっと「習文」に親しみ、合唱コンクール・学校音楽祭・音楽コンクール・定期演奏会・予餞会・成人式まで、思い出いっぱいのホールです。これからも市民が誇れるような、市外からも足を運んで貰えるような、愛される自慢の施設にして頂きたい。
4	パイプオルガン素敵ですね。
5	是非2,000から2,500人収容で、ケチらず全国でも評判になるような習志野文化ホールにしてください。
6	モリシア全体の再開発がどのように進むかによると思うが、スペックは現状を保ってほしい。
7	席数は1400-1600席。
8	パイプオルガンも必要。
9	小ホール(600-900)があれば小中学校・高校が使いやすいかなーと思う。(市民会館は400ないので 学校の演奏会がムリ)
10	八王子のホールに行ったことがあるが、商業施設と一体型だといちばん参考になるではないか。ホールだけの収益が厳しいのであれば 40階前後のタワマンも併設して、津田沼ツインタワーとしてシンボルにすればよい。地下駐車場もあんな駅近でなかなかないのであるべきだと思う。 駅からはフラットアクセスできるようにし、現在の2階相当からエスカレーターとエレベーターでダイレクトに傘なしでアクセスできるとすばらしい。 4階に小ホールと楽屋など準備系、売店など(あれば)5・6階にホールかなーと思う。B1・1・2・3階は商業施設、7階が機械室や免震層で 8-37階でマンションだろう。
11	こんにちは、市長様、市役所の皆様、お元気でいらっしゃいますか?いつもありがとうございます。私は谷津に住むアーティストです。 文化ホールの場所には是非、そのみにちみてる隈研吾さんをお願いして、能楽堂を、あるいはお能もできるステージを作って頂きたいです。素敵で能楽堂があれば、自然と文化的な方々が集まり、市内はもちろん近郊や都内からのみなさん方の交流が生まれ、文化的に高い街になると存じます。 県内2番目の能楽堂は、知識人の集客と、ある意味歌舞伎よりハイソサエティーな方々を呼び込み、そこを中心とした商業施設誘致も易しくなり、皆様が習志野市にお金を落としていかれること必至です。絶対に特別な街になります。こんな良い機会は逃してはなりません。どうかよろしくお願い致します。
12	旧市役所跡地がいいと考えます。 貴重な市有地なので、できれば市に関連する建物ができればよいと思います。費用も安く、工事も早く着工できる点もよいと思います。モリシアのほうは、解体含め不動産会社主体となるので予定どおり解体が始まるかも不透明となる可能性があるため、そうなった場合、使用できない期間がさらに伸びてしまいそうな気がします。維持費も高くなってしまわないでしょうか。
13	再築にかかる現文化ホールの経過、および新文化ホール構想の立案については、よく整理されています。P26から28ページの「事業手法」について大変興味を抱きました。(参照p26)「再建設の計画」に「ホールの事業経営」をも射程に入れた建設手法で語っていくことが重要ですね。 「野村不動産(株)」は、マンション建設と文化ホール設置、商業・業務施設設置について、どういう「ビジネスプラン」を描いているのでしょうか?。野村総研の市場調査や起業・経営力・資本(ベンチャー・コンサルタント)に基づき、習志野の表玄関、音楽文化推進都市にふさわしい、今まで以上の「津田沼南口再開発」を実現していただきたい。 施設建設については、野村の資本に依拠した考えられる最適化された手法を研究、採用を図っていただきたい。 習志野市民は、文化ホールの利活用を最重点に検討し、今後も習志野の音楽文化振興に寄与できれば幸いです。 経営力の希薄な「施設を所有」するより、民間資本により建設され、専門の経営組織が運営する文化ホール施設づくりを図り、経営基盤のしっかりした「新文化ホール施設」を「活用リース」する方が、本市の経済発展(文化投資として)合理性をはたせるものと思料します。 施設再生計画の範疇(財政健全化)にこだわる議論は、あまりしない方が、まちのおおいな経済投資・発展につながります。
14	市役所跡地は、室内プールやジムなど市民の健康に寄与する施設の建設を検討していただきたい。 習志野文化ホールはこれまでのイベント内容、来客層踏まえ、JR津田沼駅前がいいと思う。法令上、市役所跡地は建設が難しいように思われる。

習志野文化ホール再建設基本構想(案)へ頂いた御意見

通しNo.	意見
15	<p>「習志野文化ホール再建設基本構想(案)」における基本方針に基づいて、「自立的都市経営の推進」と「事業費の圧縮」を両立させるために、さらには習志野の新しい街創りにつなげるために、敷地候補地として「JR新習志野駅南口」を提案します。提案理由は以下のとおりです。</p> <p>第一の理由として、「自立的都市経営の推進」のために、新習志野駅周辺の新しい街創りの機運が高まっていることを挙げます。習志野市は「習志野市都市マスタープラン～習志野市の都市計画に関する基本的な方針」(平成12年(2002年)1月)で「ペアシティ構想」を掲げ、JR津田沼駅・新京成新津田沼駅周辺とJR新習志野駅周辺からなる2大都市拠点を形成することを目指していました。「ペアシティ構想」からちょうど20年を経た今、新駅「幕張豊砂駅」が2023年春に開業予定、南船橋駅では「ららアリーナ東京ベイ」(仮称)が2024年春に開業予定という状況で、京葉線沿線の街創りの機運が高まっています。文化ホールを新習志野駅南口に再建設し、秋津公園の再整備、国際総合水泳場を利用したシティセールスの促進、駅周辺の再開発等を併せて行い、新習志野駅周辺を「音楽とスポーツの拠点」としていくことは、習志野市の「自立的都市経営」として新たな一歩を大きく踏み出すことになります。</p> <p>第二の理由として、「事業費の圧縮」のために、「JR津田沼駅南口」案に比して事業費を低減できることを挙げます。JR新習志野駅南口に存在する駅前広場及び商業施設の一部を利活用することは、再建設に必要な事業費を圧縮し、また、約40～60年後に事業者の都合で建て替えが必要となる可能性を減らすことができます。</p> <p>第三の理由として、東京駅に35分で直結する新習志野駅の利便性を挙げます。利便性の観点では「JR津田沼駅南口」案に劣るかもしれませんが、「旧庁舎跡地」案を十分上回ります。また、第一の理由のとおり、新習志野駅周辺に位置する秋津公園や国際総合水泳場の活性化、駅周辺の再開発を併せて進めることで集客の向上をもたらす、駅周辺の街の活性化にもつながります。</p> <p>これらの理由から習志野文化ホールを新習志野駅南口に再建設することを提案します。再建設する場所自体の比較に加えて、再建設を通じて周辺の街創りをどのように盛り上げていくのかという大きな視点でご検討頂くようお願いいたします。</p>
16	<p>1. 立地場所について</p> <p>○現在の津田沼駅南口でなければ意味がない。近隣においても最大の利便性で商業施設県内の立地場所を誇るべきで、この位置だからこそその興行収入を維持できることは最優先すべきこと。また、2階のJR改札口を出て緑地を回り、そのまま車イスでも入館できるロケーションは絶対譲れない。</p>
17	<p>○さらに南口の緑地に樹木の花々が四季を表し、冬のイルミネーションや広がる空に感動できる場所は、文教都市習志野にとっても最高の財産と思う。ただ、それに付随して24ページの(その他)で、駅前全体の整備について(駅前広場やペDESTリアンデッキ、公園を含めた公共施設の更新が可能で・・・新たに企業バス乗降場所の整備が可能・・・)とあるが、緑地帯の築山部分は最大限残せるように、何とか形を変えずに工夫してほしい。</p>
18	<p>2. ホールの仕様について</p> <p>○ホールのあり方の優先順位を考えた場合、文化芸術活動の舞台のトップとして一流の音響装置を備えたもの(後付けできないものなので、従来より劣らないもの)</p> <p>①一番の条件は今まで通りの、コンサートのための音響に特化したホールで、基本構想のワンスロープ形式の座席の案が良いと思う。</p>
19	<p>②座席数は従来並みか以上。(大きすぎる必要はない)</p>
20	<p>③9ページ(2)のバリアフリー化の(アイウ)に基づき、付き添い者用のスペースも作れる可動式シートなどもあればよいと思う。電子機器用のコンセントなどはできる範囲で当然なのだろう。</p>
21	<p>④座席数を演目の集客数に合わせ、例えば後方三分の一、あるいは二分の一を間仕切り装置でシャットし、照明や空調機器も分けて省エネをはかり、幼保などの少人数や演目にも対応できればニーズが高まるのではないかと思う。</p>
22	<p>⑤オーケストラピットは大劇場ではないのももちろん不要と思う。</p>
23	<p>⑥パイプオルガンについては、そのままステージにない方が格段に良いとしたら、(袖が広がるので)処分するのではなく、例えば現在の1～2階の吹き抜けのロビーなどがまた設置されるのであれば、商業施設への集客も見込めるかも。パイプオルガンなどを間近に目にするチャンスはめったになく、文化遺産の一つでどちらかを希望。</p>
24	<p>⑦緞帳はまだ使用可能ということで、大切な市の文化遺産の一つなので安堵。</p>
25	<p>⑧ホワイエの在り方 あのスペースは広くあることで、学校関係の利用がスムーズに行われていると思う。できれば天井や壁などに、県産材などの木材を用いて温かみのある色や風合いを生かし、味わいのある空間を演出してほしいと思う。また、北側は従来通りのガラス貼りで、植栽に囲まれた眺望はぜひ引き継いでほしいし、コーヒーマシンの自販機などで簡単なコーナーがあっても良いかも。既にあるかもしれないが、展示会場など用に、やはり間仕切り機能を設置して景観を損なわない程度の多機能性多様性は求めるべきだし、ホール未使用の場合でも一部喫茶コーナー開設で採算がとれるかどうか。とにかく四階からの眺めがもったいないくらい素晴らしい。</p>
26	<p>3. その他</p> <p>①付随する練習室やイベントホールの機能は、無理に詰め込むより、別のフロアでもやむを得ないと思う。</p>
27	<p>②支給条件はよくわからないが、国庫補助金の申請ができればよいと思うが、民間企業に運営を任せる？ということか、いずれにしても市民は蚊帳の外なので見守るしかないということかと思う。</p>
28	<p>③9ページから14ページは申し分ない設定だと思われる。</p>
29	<p>④22～24ページ旧庁舎跡地との兼ね合いは、次の恐らく3、40年後の再々建替時には道路整備や地種変更が進んでいたとしたら、考えられることもあるかもしれないが、今回は絶対無理で不便になるのは明らかで、興行収入ダウンは目に見えて明らか。財源化だけの目的ではビジョンが見えず断固反対。現在の宝を手放すに等しい。</p>
30	<p>⑤今のモリシアオフィス棟4階エレベーターを降り、園庭ともいえるデッキからの北側(津田沼駅方面)の築山緑地越の広大な空と、小さく見える駅やパルコなどの眺めは、今回初めて気づいたが、習志野津田沼界隈の眺望ナンバーワンだと思う。ぜひ維持してほしいと強く要望する。また中央エントランスの植栽や空間も、雨には傘が必要なが、外気に触れての劇場入りは気分が改まり貴重な空間だということを感じる。</p>
31	<p>⑥設置階数への記述は見当たらなかったが、できれば現状維持か一階分くらいまでなら高くなっても仕方ないかもしれない。南側のタワマンも上階のイルミネーションなど、一定の距離が有るので悪くはないと感じる。</p>
32	<p>⑦津田沼南口の再開発に当たって、他県のターミナル駅で最近よく目にする広大なペDESTリアンデッキだけはやめてほしい。津田沼のデッキが今より広くなると、町の佇まいが見えなくなり、町の個性や営みが見えず、面白みが失せて町の魅力が失くなってしまいうので、北口も南口も今のバランスだけは守ってほしい。津田沼駅が高架ではなく、改札が高架なので、くれぐれも気を付けないと駅周辺の町が元気が失くなるのは目に見えるので、図面に惑わされないようお願いしたいと思う。</p>
33	<p>市役所あと地の方がいいと思います。</p>
34	<p>* 音楽の街、文教都市構想からするとしっかりした多目的ホールが是非必要である。 * 現文化ホールの再建に関する基本的な問題は土地の所有、建物等に関して市の主体性がないことにある、それ故につい数年前にも修理のため閉館したのにも関わらず今回も老朽化云々となり建て替え検討となってしまった。 * 今後の人口減少や、頻発する災害対策などを勘案すると市民本位の文化ホールにすることが求められ、商業的効果を多く求めることを追求すべきではない。 * 最近の動きとして市有地の有効利用と称して売却やPFI方式の導入など財源確保に重きを置き公民館、集会所の廃止など市民本位とは反対の動きがいくつか伺える。それも市民に良く分からないうちに決定実行されているような感じを持っている。 * 結論として小生は今回の候補地案としては、旧市役所庁舎跡地の利用を強く提案いたします。貴重な市有地を売却あるいはPFI方式での利用で将来の独自性を売り渡すことのないように強く希望いたします。</p>

習志野文化ホール再建設基本構想(案)へ頂いた御意見

通しNo.	意見
35	「あしたのハーモニーが響くまち」の通り、古くから市内小中高校などが音楽において全国に名を轟かせてきた習志野市にふさわしい、どこの自治体からも、『さすが習志野市のホールだ！』と言われるようなホールにしたい。
36	習志野文化ホールは、この辺りでも一番優れているホールだとか。特に木材がたくさん使われていて、音響に優れていると。世界各国の演奏家が来られても恥ずかしくない、一級のホールだと聞いていました。再建されるについては、このレベルが守られるのでしょうか。それと、JR津田沼駅から出たところから向かい側での演奏(合唱でしたが)が素晴らしかった。駅周辺の眺望がどうなるか、殺風景なビルがのっと建つのでは、文化都市習志野の名が廃れます。バリアフリーや耐震も大事ですが、以上ふたつの条件を満たしたものを切に願っています。
37	旧庁舎跡地に建てるのは、交通から考えてどうかと案じます。船橋の西武デパート跡に文化ホールが建てられたら、交通状況から考えると、京成駅から数分とはいえ、まえると思います。雰囲気もちよつと。ただし、市役所跡地にマンションなどを建てるのは困ります。
38	習志野文化ホールは市の文化的財産であり、パイプオルガンは市民の誇りでもあります。
39	パイプオルガンを新しいホールにも備えることが出来ることを条件に、費用面や手続き、市庁舎跡地の有効利用の観点か跡地での建設に賛成します。その場合のデメリットである交通の不便さはJR駅からのバス経路の工夫等の知恵で何とか改善できるのではないかと思います。
40	現在のホールを使用できなくなり、新ホールが出来るまでの空白期間はどこを利用するのかも工夫して頂きたいと思います。
41	コロナ禍での影響に続く、ホール建替えによる空白は習志野市の文化活動にとって大きな損失になると考えます。「ホール再建設準備委員会」のような会議を民間を組み合わせ発足させたいかがでしょうか。
42	今と同じ場所での建て替えを希望します。理由としてはJR津田沼駅からのアクセスが便利だからです。駅からに限ったことになってしまいますが、デッキで繋がっているため信号などもなく改札を抜けたらそのまま行ける点がとても便利だと思います。
43	車椅子やベビーカーの方がそのまま入れるように、エレベーターでも良いのですが上の階に直接向かえるスロープなど付けるとより行きやすいのかなと思います。
44	習志野市が今後も「音楽の街」を掲げていくのであれば、駅前に再建設されることを望みます。音楽の専門教育を受け、ヨーロッパ各国を周り様々な劇場に足を運びましたが必ず主要駅の目の前に劇場はあります。日本国内の著名ホールも然りです。津田沼駅は都内からも千葉県各所からのアクセスも良く、集客も望めるものと思います。コンサート主催としても交通の利便性の悪いホールでのコンサート開催は何か利点がない限り選択肢に入らないと思います。特に、また習志野市庁舎跡地は交通の便が悪すぎる為、集客も見込めず、コンサートなどの収入がなくなれば赤字経営になり、再建設費が抑えられても負の遺産になると考えます。
45	ホールはもちろん市民の憩いの場としてロビーにフリーコンサートなど開催されて気軽に市民が音楽を楽しめるカフェスペースなどあるといいなと思います。幼稚園生や市内の小中高生の演奏でもいいですし、公演の宣伝のようなプレコンサートを開いても面白いのではないのでしょうか。今より習志野市がもっと音楽と距離の近い街になることを望みます。
46	駅前立地の優位な立地は市民の財産。これを維持することを最優先とすべき。文化ホールは文教都市習志野のシンボル、習志野市の最大のアイデンティティである。現状施設の土地利用の問題点は、駅前立地にあるにもかかわらず、ポテンシャルの高いロータリー周辺を無意味な公園広場にしてしまっていること。商業施設としては駅から歩行距離がかかりすぎるため、ペDESTリアンデッキで結ばれているにも関わらず駅の南北の回遊性が損なわれている。特に、高齢化が著しい現況においては、その影響が顕著。対策としては、駅の南北の再開発を効果的に誘導する必要がある。駅から歩ける屋根付きのペDESTリアンデッキに改修し、駅に近い部分への商業集約を図ることが最優先。もちろん容積率の消化のためには上層階をタワーマンションにすることは仕方のないことと思われる。経済的効果をさほど優先しない文化ホールや広場は、計画地の南側に集約するのがよい。駅>商業施設>文化ホール>広場>住宅地の階層的土地利用を基本にすべきであろう。ホール自体の基本方針は、市の案のとおりでよいと思うが、市民の財産である現立地を維持し、デベロッパーの行う開発計画を、駅の南北の賑わいの確保ができるよう巧みに誘導されることを期待する。
47	多くの有名ミュージシャンがツアー初日に使用するホールとして ・川口リリアホール ・三郷市文化会館 ・八王子市民会館(J:COMホール八王子) ・厚木市文化会館 ・ハーモニーホール座間 ・市川市文化会館 が挙げられます。 いずれも都心から離れたホールであり、駅から遠い場合が多いのにも関わらず、何故ツアー初日のホールに選ばれるのでしょうか？ネットで調べたところ、 ・大ホールに分類されるだけのキャパシティがある ・音響が良い がメインの理由だそうですが、客の入り具合やファンの反応を見るために、あえて都心から離れたホールを選んでいるらしいです。 新しい習志野文化ホールですが、現在の場所でも旧市庁舎跡地でも個人的にはどちらでも構いませんが、ぜひツアー初日に選ばれるホールになってほしいと思います。
48	A.既存の場所(津田沼駅前)に再建設することを支持します。 1. イベント会場は利便性が高い場所にあることが、より多くのイベントを誘致する最大の理由になります。津田沼駅最寄りであることは、今と変わらず、それ以上に多くの人を引き寄せることができます。 https://amaoke.com/concerthalls/?msclid=0079c503b48011ecb4ad916593f00745&fbclid=IwAR1cHKDFGHTIzqSWfCU6mveFcE9Ls5DZgeizIPmQTIGJTzdJh7dVJxnNmXQ 上記サイトによれば、現在の習志野文化ホールの規模・立地(＋オルガン)は唯一無二の好条件が揃っており、この条件を維持することは音楽を大切にしたい習志野市のコンセプトに合致します。 2. 「奏の杜」と命名した、習志野市に音楽が根付いたその歴史的背景には習志野文化ホールがそこにあったからです。もし新ホールが別の場所へ移動した場合はその伝統も薄らいでいく可能性があると思います。 http://www.kanadenomori.jp/philosophy/name.html
49	B.オルガンの再設置を支持します。 県内唯一のオルガンが設置されているホールであり、また首都圏にある同規模ホールでもオルガンが設置されているのは習志野文化ホールだけです。現在はそのオルガンが設置されていることを特に有効活用していませんが、他ホールが行っているように専属オルガン奏者の設置や定期的なコンサートを開催することで、より身近に音楽のすばらしさを感じてもらえるきっかけになるツールであると考えています。

習志野文化ホール再建設基本構想(案) へ頂いた御意見

通しNo.	意見
50	<p>C.採算性について</p> <p>1. 千葉交響楽団がメインに活動しているホールは、この習志野文化ホールと千葉県文化会館ですが、利便性という意味では津田沼駅最寄りの習志野市文化ホールに優位性があります。東京都墨田区のすみだトリフォニーホールのように千葉交響楽団のメインホール、フランチャイズにする(してもらう)などより使用頻度を上げ、採算向上(改善)を行うことご検討ください。</p> <p>2. 習志野文化ホールは今でもモリシアに付属しています。そのため演奏会のために訪れた人は、その前後にモリシアなどを訪問しお金を落としているはずで、それが移転した場合はその連動性が失われ、結果的に再開後の商業施設の集客力に悪影響を与えかねません。現在の場所での再建築が、習志野市の玄関口(南口)の魅力高めるものと思います。</p>
51	<p>習志野文化ホールは、旧庁舎跡地に建設した方がよいと考えます。</p> <p>現在の場所での建て替えでは、多額の費用をかけたうえに、今回も、また次のときも民間不動産会社の意向が大きく働き、市民のために十分な機能をもつ施設とはならないのではないかと思います。新文化ホールも、パイプオルガンを残すなど、習志野市の特徴を生かした、価値ある文化施設にしてほしいと思います。また、旧庁舎跡地は、習志野市民の財産であり、全市民のために活用し続けるためにも、文化ホールの建設にふさわしい場所だと考えます。</p>
52	<p>建て替えを機に、高層マンションやショッピングモールなどを含めた複合施設にするなど、形態は問わないが、今と同様のイベントやコンサートを開催、招致出来るような施設にし、場所を津田沼駅前から移転させないこと。</p>
53	<p>パイプオルガンをホールのシンボルとして引き続き設置することを希望します。</p>
54	<p>4月13日にたまたま東京新聞千葉版を目にするまで習志野文化ホール再建のパブコメを募集していることを知りませんでした。広報習志野を見直して記事を発見しましたが、重要な案件なので毎号、もっと目立つようページを割いて広く意見を募って頂きたいと思います。</p>
55	<p>習志野文化ホール開館当初から、ヴァイオリン発表会、塾の進学祝賀会、中学高校の合唱祭、芸術鑑賞会、アーティストのコンサートなどで幾度と利用させて頂きました。音響も上々ですし、広くて明るいホワイエやステンドグラスといった建築・内装も素敵だと感じておりましたし、さほど老朽化を感じておりませんでしたので、再建しなければならないこと自体が残念ですが、再建する上は、できるだけ今の良さを残して頂きたいと願っています。</p>
56	<p>津田沼駅南口の開けたコンコースの向こうに聳え立つ習志野文化ホールは「あしたのハーモニーが響くまち」は正しく習志野市の顔だと思います。パイプオルガンも習志野文化ホールのシンボルとも言え、クラウドファンディングを実施してでも残して頂きたいです。</p>
57	<p>立地こそは習志野文化ホールの価値の基盤だと思います。旧市役所跡地への移転は、立地のメリットを損ね、習志野文化ホールの存在価値を著しく損ねると思われ反対です。嘗て学生オーケストラで浦安市民会館や武蔵野市民文化会館などで定期演奏会を開催したことがあります。建物はそれなりに立派であっても、駅からバス利用で集客のデメリットが大きく、会場使用料が廉価でも次もそこで開催する気になれませんでした。イベントは開演と終演の時刻が決まっているため、イベントによってそうした時間に合わせてバスを増便するのも難しいのではないのでしょうか。古き良き津田沼を壊さないように再建をお願いします。</p>
58	<p>文化ホールはその街の文化を育む大切なもの憩いのシンボルとも言えると思います。そして街の中心的な建物もして人が集まりやすく賑わいを感じるところに有るイメージがあります。津田沼駅はどこからでもアクセスが良く音楽やイベントに来て帰りに少し買い物食事などして気持ちよく帰ってもらう所が津田沼駅前が良いと思います。</p>
59	<p>1. 再建設基本構想(案)の「基本方針」「設置理念」「特徴」は、全面的に大賛成です。この中に「市民利用では習志野高校、谷津小学校や市外学校の定期演奏会、混声合唱団等」とありますが、市内には県内2番目に発足した習志野フィルハーモニー管弦楽団、アマチュアオーケストラ・吹奏楽団が8団体もあり人口17万都市でこんなところは全国どこにもありません。「音楽の町」と言われる所以です。</p> <p>ただ、この中に近隣市のホールの座席規模について「将来競合も想定される」との意見がありますが、私には意味不明です。</p>
60	<p>2. 敷地候補地の検討</p> <p>現在地と旧庁舎跡地については、当然のことながら優位性(メリット)懸案(デメリット)があります。この場合「基本方針」や「設置理念」からして現在地のメリットをとるべきだと思います。(因みに、旧庁舎跡地の場合、出演者・来場者の為の駐車場敷地が大幅に必要となります。駅前に比し土地面積が必要)</p>
61	<p>3. 座席数</p> <p>利用団体によっては色々な意見がありますが、私は1,500席程度は必要と思います。</p>
62	<p>4. バリアフリー対策</p> <p>当時としては止むを得なかったですが、現時点では不十分なので、時代に則した改善が求められる。</p>
63	<p>5. 音響設計</p> <p>現在のレベル以上を望みます。当時は、専門機関としてNHK技術研究所に委託しました。評判の良い他のホールを参考にするのも良いかも。</p>
64	<p>6. 楽屋・控室</p> <p>当時私は「ステージと同じフロアレベル・裏側」「指揮者等が使う特別控室をステージ下手」と提案しましたが、建物全体の面積の関係から適いませんでした。改善を望みます。</p>
65	<p>7. パイプオルガン</p> <p>当初、計画には有りませんでした。市長から意見を求められた私は「できる事なら欲しいです」と申し上げました。その後市長から「埋立進出企業などからの協力が得られるから入れる」と言われ、市長の決断に感謝した覚えがあります。これは使用頻度の問題ではなく、このホールのステータスとしてトップがどう判断するかです。使用回数こそ少ないが、過去には市外から船橋や市川のアマ・オケ、プロの千葉交響楽団もオルガンを必要とする曲をここまでやりましたし、宗教曲や合唱曲でも本物のオルガンを体験することができました。でも、これは無理のようですね。</p>
66	<p>8. ギャラリー</p> <p>私は、面積的に厳しければホール内に設置せず、現在の「モリシアホール」のような施設を隣接させればよいと思います。(今あるギャラリーは、当初計画になかったのですが、絵画・美術に造詣の深い理事長の一声で急遽入れたもので、狭すぎます。)</p>
67	<p>9. 車両</p> <p>大型車の搬入可能なスペースは絶対必要です。出演者・関係者用には少なくとも15台～20台のスペースは欲しい。複合施設の中でホール専用とし考慮していただきたい。</p>
68	<p>10. 座席の形状</p> <p>前後の間隔・交互配置・2階席 などの検討が必要ですが、評判の良い他のホールを参考にしたら良いと思います。ただし、工事費や席数確保との兼ね合いも考慮が必要。</p>
69	<p>11. ステージ形式</p> <p>多目的ホールなのでプロセニウムでしょう。サイズも現ホール踏襲。緞帳は残せるなら残していただきたい。</p>

習志野文化ホール再建設基本構想(案) へ頂いた御意見

通しNo.	意見
70	12. 内装の壁や反響板は「木」の暖かさ生かしてほしいと思います。当時は高崎の音楽ホール(今はありません)の印象がとても良かったので、提案しました。この点は踏襲してほしいです。
71	13. 「中継室」「技師控室」 中継室と技師控室の機能を持った部屋はどこかにどこかに設置することになるのでしょうか、実は現在ここをステージの撮影にも使っています。私自身何十回も使っていますし、「第九演奏会」等も含め多くの催しでカメラマンが入っています。ただ、本来写真撮影を目的とした部屋ではないので、本来の目的に迷惑が掛からないように配慮しています。 一般的に、どんな事業でもステージを俯瞰的に撮影することが多々あります。新しいホールでも、そんな場所があると便利かと思います。他のホールを例にあげれば、俯瞰できる場所として「バルコニー席」「2階席」があればその目的を果たせます。私の経験からすると「千葉県文化会館」や「行徳文化ホールI&II」のバルコニー席、「船橋市民文化ホール」の2階席等がそれです。しかし、ホール客席形態の問題で「1階ワンスロア」を選択するとこれはありません。私は、1,500席程度でしたら「音響面」「建設費」「来場者動線」の点から、「1階ワンフロア」が望ましいと思いますので、この問題は別途考慮する必要があると思います。
72	ホールを新しく造るとなると検討事項はたくさんあると思いますが、私が気になっている項目について申し上げてみました。「使用者」「観客としての来場者」「興行者」「財政面」等それぞれの立場で幅広いご意見があり、その違いも様々あると思います。それらを整理し纏めるのは大変な作業ですが、ぜひ、多角的に検討して後世に禍根を残さないようなホールとなるよう、ご努力ください。
73	パブリックコメントの募集に先立って、文化ホールの建設地として新習志野駅前も候補に加えて欲しい旨、市長宛てに連名でお願い文書を提出した者です。市内南部に生活圈を持つ者としては、新習志野駅周辺の活性化を心から望んでいます。 東関東以南の都市計画について、市は『住工混在を防止した産業業務地区』とし、駅周辺を『商業・業務・サービス等を兼ね備えた交流拠点』と言うばかりですが、現実には駅前近傍は大規模倉庫がいくつも軒を連ねる街区に変貌しつつあり、人影が少ないために駅前飲食店の閉鎖が続いています。この状況(駅前の倉庫街化)を市は是認しているわけですが、これを望ましい街づくりと考えているのか否か?…ぜひ伺いたいところです。 以上のような意見を基として“文化ホールを新習志野へ!”と考えましたが、津田沼駅に建設されることに反対するワケではありません。現在地がホールとして絶好の立地であることは間違いなくと思います。ただ、駅南口の再度の大開発となるために、市の出費が膨大になることを市民の一員として危惧しています。 今回は野村不動産のショッピングモールとの複合用途建物となるようですが、“商業施設”と“文化ホール”が併存することが双方のメリットとなり、より経済的な建設が可能になるような施設計画が実現するように望みます。 なお、“文化ホール再建基本構想(案)”の22ページ表4、津田沼南口の容積率200%は、600%の間違いだと思いましたが…?
74	私は小学生の頃からずっと吹奏楽をしており、9年間習志野文化ホールにお世話になりました。おんがくのまち習志野の象徴である文化ホール、そして様々な思い出のある場所です。私はこのホールを誇りに思っていますし、閉館には断固反対です。たくさんの方々の思い出の場所を壊さないでください。
75	「建て替え場所」、「事業手法」及び「パイプオルガンの設置の有無」に関しては対象案件の比較や一部の関係者のヒアリング内容の記述だけで、「基本方針(P6)」に行政の考え方(方向性)を記述していないのは何故ですか。
76	市民にパブリックコメントを要請する基本構想(案)には重要事項(本基本構想(案)の場合、私の指摘する三つの事項「建替え場所」「事業手法」「パイプオルガン設置の有無」)について行政の考え方(方向性)を明確にすべきだという私の考えに対して、行政はどの様に考えますか。
77	行政は、「JR津田沼駅南口」と「旧庁舎跡地」の事業費の差の37億6千万円は習志野市の一般会計においてどの程度の財政負担になると考えていますか。そして、その負担は将来的な財政負担に耐えうると考えていますか、または、耐え切れないと考えていますか。 「表5(P23)」の「財政・財源面」の「JR津田沼駅南口」の項に、「・再開発事業において国庫補助金を獲得できる可能性が有る」としてありますが、「表4」の費用試算の場合どの程度の国庫補助金が期待できますか。 国庫補助金が獲得できた場合、「JR津田沼駅南口」の事業費の一般会計における市の負担は「国庫補助金」分少なくなります。その場合、「旧庁舎跡地」の事業費との差はどの程度になると考えていますか。
78	本基本構想(案)では「建て替え場所」に関する選択の方向性を示していませんが、今後どのような体制及び手法で検討し、決定する予定ですか。「建て替え場所」の検討と決定に際して、市民の意見をどのような方法で反映するつもりですか。
79	建設費や維持管理費の縮減を図るためにPFIやDBOを採用するのは良いが、その場合、行政は運営を「民間」と「市直営」のどちらで行うのが良いと思っていますか。また、その理由は何か。 本基本構想(案)では「事業手法」の選択の方向性が示されていませんが、今後どのような体制及び手法で「事業手法」を検討し、決定する予定ですか。「事業手法」の検討と決定に際して、市民の意見をどのような方法で反映するつもりですか。
80	P26の「メリット・デメリット」の表の「DBO①(運営:民間)・DBO②(運営:市直営)」及び「PFI①(運営:民間)・PFI②(運営:市直営)」の「メリット」欄では以下の記述があります。 「・一体的運営により民間ノウハウを発揮することで、収益が向上し事業が安定する」 ①運営が民間の場合も市直営の場合も、何故全く同じ文章が記述されているのですか。 ②「民間運営」の場合は「民間ノウハウを発揮する」ことはできると思いますが、「市直営」の場合、「民間ノウハウを発揮する」ことはできないのではありませんか。「市直営」の場合、どの様にして「民間ノウハウを発揮する」ことができるのですか。 ③「一体的運営」とは、どの様な運営をすることですか。「民間運営」の場合と「市直営」の場合について説明してください。
81	P26の「メリット・デメリット」の表の「PFI②(運営:市直営)」の「メリット」欄では以下の記述があります。 「・直営による市民ノウハウの継承と文教行政へのフィードバック」 ①何故、「市直営」の場合に「市民ノウハウの継承」ができるのですか。また、何故、「市民ノウハウの継承」が必要なのですか。 ②「職員ノウハウの継承」の間違ひではありませんか。(「職員のノウハウの継承」は重要なポイントです)
82	P24の「5. (1) 1) 民間活力の活用について ②資金以外の民間活力活用」の項に以下の記述があります。 「運営についても、本市のコンセプトを明確にしたうえで、収益性向上のための民間活力を活用することで、収益力のアップを図ることができます。現状の習志野文化ホールのように商業施設等を併設するなど、複合施設とする場合には、引き続きテナント募集などのノウハウを民間事業者が持つことが想定されます。」 ①前段の「収益性向上のために民間活力を活用することで、収益力のアップを図ることができます」という記述は民間活力の活用の一例を示しているのでしょうか、「行政は文化ホールの運営を民間に任せることが良いと考えている」と受け取られかねません。P26の「メリット・デメリット」の表に記述する方が良いのではありませんか。 ②後段の文化ホールの運営に「テナント募集など」が何故必要なのですか。現在の文化ホールではどの様な「テナント募集など」が行われているのか具体的に説明してください。 ③後段の記述内容はよく理解できません。もっと分かり易い文章に修正するか、P26の「メリット・デメリット」の表に分かり易く記述したほうが良いのではありませんか。

習志野文化ホール再建設基本構想(案)へ頂いた御意見

通しNo.	意見
83	<p>パイプオルガンの設置のために「目標金額を設定するクラウドファンディングの実施なども検討する」としていますが、これはパイプオルガンを設置することを前提にした考え方に受け取れますが、行政は設置を前提に考えているのですか。</p> <p>費用の問題以外に、解体・設置に外国から技術者を招聘しなければならず、保管方法や保管場所にも技術的な問題があることなどを考慮すれば、そこまでしてパイプオルガンを設置しなければならない理由が理解できません。行政はこれらのことについてどの様に考えていますか。パイプオルガンがない場合、文化ホールの運営及び興行的にどの様な不都合があると考えていますか。そして、そのことは習志野市の文化ホールとして致命的な問題ですか。</p> <p>パイプオルガンの設置の有無に関して、今後どのような体制及び手法で検討し、決定する予定ですか。</p>
84	<p>クラウドファンディングを実施する場合、総合政策課が責任をもって行うのですか。総合政策課が責任部署でない場合、どの様な体制で実施する予定ですか。クラウドファンディングの目標金額に到達しない場合は設置しないのですか、その際の対応をどの様に考えていますか。</p>
85	<p>【再建場所】 ○JR津田沼駅(現在地と同じ) JR津田沼駅という立地は交通の利便性と(来場者は市内の他、都内、千葉市側、松戸市側などがある)近隣の商業施設が充実した場所であることを踏まえとかけがえないものと思料いたします。さらにこのようなJR駅近くというホールは全国的に見ても数少なく、習志野市の文化への矜持の高さをステータスシンボルとして日本全国に発信できるものです。(市内在住者だけではなく、東京勤務者もホールでの夕刻公演やギャラリーの展覧会などの鑑賞が可能な立地である) 旧市役所跡地という案もあるように聞き及んではいますが、それでは他の自治体のホールと何ら変わりがなく、音楽のまち習志野とも称されている習志野市の特徴としての文化ホールとしての位置づけることが難しく、また、貸しホールとしても大きな役割があることを考え合わせると興行側の視点から考えて、旧庁舎跡地では集客が見込めないと分析いたします。</p>
86	<p>【ホールのハード面】 ○多目的の大ホール最低限1,200席程度の客席数 舞台に関しては、現在、習志野文化ホールにはオーケストラピットがあるが、それを利用して興行できる広さの舞台とは言えず、舞台裏、袖を含めて面積が不足している。演劇から音楽までの幅広い公演が開催可能な舞台の広さとバックヤードの広さの確保が必要である。</p>
87	<p>○音響設計については、ホールの音響設計に世界的に評価の高い設計専門会社を利用すること。県内での響きの良いホールとしての定評のある千葉県文化会館大ホール、森のホール21大ホールをしのぐ音響のホールを目指してほしい。また、舞台の大きさ、吊りバトン、照明設備にも留意されたうえで、前述のホールと同等の間口、奥行き、高さを確保していただきたい。</p>
88	<p>○大リハーサル室を2部屋設置する。収容人員は1部屋約120人 大リハーサル室1はバレエなど舞踊に対応。大リハーサル室2は発表会利用も可能な設備を整える。</p>
89	<p>○小ホールは作らない すでに、小ホールとして稼働しているプラッツ習志野市民ホールがあり、上記の大リハーサル室とあわせて活用すれば小ホールが無くても良いと思料するものです。</p>
90	<p>○楽屋の設置場所、平米数、数 事故、怪我防止、効率的な動線確保などの観点から楽屋は舞台裏手が望ましい。平米数、楽屋の数の増加が必要。現在は広さ、室数ともに不足している。</p>
91	<p>○ホール内のバリアフリー化とトイレの増設 トイレに関しては、客席も楽屋も増設の必要がある。</p>
92	<p>○人工的な残響システムについては必要なしと思料する。</p>
93	<p>○親子室はなくてもよいと思料する。 親子室はスピーカーを通しての鑑賞となり、生の公演を楽しむという体験にはならず設置の意味は薄い。親子での舞台芸術鑑賞には0歳児からの公演等の企画で担保する。</p>
94	<p>○パイプオルガンについては新ホールに移設することを望む。</p>
95	<p>○500㎡クラスのギャラリーの設置。(絵画、書道、華道、工芸、写真等を展示する)</p>
96	<p>○大型車(10t車程度)搬入可能な駐車場とスペースの確保。</p>
97	<p>○習志野市民及び市民以外でも利用できる有料会議室の設置。</p>
98	<p>【運営面】 ○使用料は現在と同じ程度の金額。</p>
99	<p>○利用区分の変更 現在の午後区分終了時間16:30は他のホールの終了時間よりも短いために不便を感じている。他のホール同様の17:00に変更するよう強く要望する。</p>
100	<p>【再建するまでの要望】 ○設計段階から必要に応じて舞台、芸術分野の専門家を参加させていただきたい。</p>
101	<p>○習志野文化ホールは全国の公共施設で初めて、パイプオルガンを設置したホールである。しかしながら、一人で演奏する楽器として最大の大きさであるパイプオルガンの音色を習志野市民及び市内在学中の子どもたちは耳にしたことが少ないのではないかと判断する。 現在に至るまでに、市民向けのパイプオルガン講座や学校教育プログラムとして1時間程度の演奏での鑑賞会を実施するなど、ホール側からアウトリーチ活動が行われていれば、利用人数増加やパイプオルガン使用回数を増やすことに繋がられたのではと分析している。閉館までに市民や市内在学の児童、生徒たちに習志野文化ホールのパイプオルガンを聞く機会を設け、再びホールを使用し鑑賞に来場していただけるよう、習志野市の未来を担う子どもたちに「種」を撒くべき力を注いでいただきたい。</p>
102	<p>○解体及び再建工事を開始する直前までのホール使用をできるだけ可能にする措置を講じる。</p>
103	<p>数年前、四国旅行の際、徳島県美馬市で地域交流センターを知り、習志野市にこのような場所があったらいいなとパンフレットを大事に持っていました。 ホールだけでなく、周りに色々な施設があること、災害時には市民に役立つ場所が欲しいです。 旧市役所跡地に作ることを希望します。</p>

習志野文化ホール再建設基本構想(案)へ頂いた御意見

通しNo.	意見
104	・音の響きについて 基本構想案に述べられているように、既存のホールは多目的ながらも音の響きについてはいいという評価があります。今日の様々な知見の進歩を踏まえ、全てにおいて中途半端なホールとならないよう、生の音の響きの良さに重点を置きそれをさらに高めていただきたいと思います。
105	・座席数について 1,200席から1,500席とありますが可能な限り1,500席を実現していただきたいと思います。客席は現状と同じワンスロープで、前後の席が互い違いに配置されたものにしていただきたいと思います。
106	・多機能ホール化について 照明装置や音響設備を含め、これまでの利用状況を勘案して、必要以上に費用をかけないよう、慎重な検討を要望します。
107	・ステージの広さ 音の響きを考えるとオープン形式が望ましいのですが、多目的ホールを目指すのであればプロセニウム形式でやむを得ないと思います。
108	・ステージの広さ オーケストラピットを設置しないこともこれまでの使用頻度から言ってやむを得ないでしょう。
109	・ステージの広さ 既存のステージの広さを補完するため、オーケストラピットをステージと同じ高さにせり上げて使用することはしばしばありました。したがって、なくすのであれば、ステージの拡張を是非お願いします。
110	・楽屋について 現状では、個室の楽屋は一つですが、少なくとも個室の楽屋を2室設置するよう要望いたします。そして、それぞれに洗面、トイレ、シャワーの設備と、2室のうちの1室にはピアノ(アプライトで可)の設置を要望します。空調もそれぞれで調整できるようお願いします。
111	・附属施設、特にリハーサル室について 優れた上演や公演のためにリハーサルが必要なことは言うまでもありません。しかし、現在の敷地での建て替えということを前提にすると使用借件の広さに限界があることから、附属施設は考慮せず、楽屋の充実を図るべきだと考えます。リハーサルのためにホールを使用したいとの要望は私どもも持っております。一部の文化施設で実施されているように、ホールでの公演のためにホールを使用する場合の、使用料の減額を検討されることを要望します。リハーサル室やギャラリーについては、隣接する民間施設にて拡充されるよう、要望します。特に、習志野市の文化芸術の質の高さに貢献している習志野第九合唱団の公演では、毎年、オーケストラと合唱団の楽屋の確保が問題になります。隣接する施設にそれに対応できる場を確保できることが重要です。
112	・パイプオルガンについて これまでの習志野文化ホールの利点として、交通の利便性ととも千葉県唯一のパイプオルガンが設置されているホールということが挙げられます。しかしながら、先ごろ、千葉市市民会館がJR千葉駅の隣接地に建設されることが計画され、利点の一つがなくなることとなります。使用頻度の低さが問題にされていますが、パイプオルガンを設置している他のホールと比較しても、低いとは言えないのではないかと考えます。再設置のために多額の費用が必要ですが、「音楽のまち」習志野を象徴するシンボルとしてばかりでなく、千葉県唯一パイプオルガンの設置されているホールとして残されることを希望します。
113	・敷地候補地について どちらかというと、現在の場所に再建設するのが望ましいと考えますが、「音楽のまち」習志野の中核をなす施設として、その空白はできるだけ短くされるよう要望いたします。
114	・その他 基本構想から基本設計さらに実施設計と進まれるのでしょうか、必要に応じて、興行としてではなく、21世紀にふさわしい首都圏のホール建設に向けて、創造する立場での利用者の意見をくみ取っていただく場を設けていただくことを要望します。
115	習志野文化ホールは、長年演奏会の時に利用させてもらっています。現在の場所に再建されないのであれば、利用価値がないと思います。コンクール等にも頻繁に使われる事も考え、駅前を希望します。
116	また、パイプオルガンも是非設置してください。(利用価値があがると思います。)
117	・財政面でも旧庁舎跡地に建ててほしい。跡地の有効活用を是非。住民の税金を無駄に使わないでほしいと思う。京成津田沼駅からも近く、駐車場も万が一の場合、市の一部を使用するなど考えられるのではないかと。
118	・現在のホールは座席の前後間隔が狭くゆとりが欲しい。
119	・バリアフリー化と長時間でも快適な座席は良い。トイレの数も多くしてほしい。
120	・収容人数は少子化に伴い、少なめ(1,200席)でも良いのでは。
121	・音響設備の木の仕上げ、大変でしょうがいいですね。
122	・ホールだけでなく、公民館として使用できるような会議室などの設計の検討もお願いします。長く使えるホールを是非お願いいたします。
123	・習志野文化ホールは習志野市の顔でありシンボルであり続けるためにJR津田沼駅前に建設することが大切だと思います。ぜひお願いします。
124	・音響については現状を維持、またはそれ以上にすることが大切だと思います。音響重視で木材使用などの工夫をお願いしたいです。
125	・形態はワンスロープの現状維持で全く問題を感じません。
126	・客席の座席等に関する件はパブリックコメントに指摘のあるような件をご検討ください。重ねてのお願いですが、音響面での失敗は決して許されないとしますのでよろしくお願いいたします。

習志野文化ホール再建設基本構想(案)へ頂いた御意見

通しNo.	意見
127	・オペットの使用体験はオペラ「カルメン」をやった時の1度きりでした。今後このような体験はほとんどないと思います。ただ、ステージの面積が不足してピットを上げての使用は何度かありましたので、ステージの奥行きを後1～2m広げていただければピットは無くても良いと考えます。
128	・ホール内の空調の音が気になっていました。演奏上、静かな音楽になった時や突然の無音になる瞬間があるとき空調の音がかすかでも聞こえることで音楽が台無しになります。客席での鑑賞時、このことは大変気にかかりました。完璧なる改善をお願いします。
129	・ステージの照明ですが、ステージ前面ぎりぎりまで出て演奏する奏者は譜面が見づらいという問題がありました。この時客席から最前列の奏者を見ると逆光になって顔が見えないような感じでした。ステージ最前列上の照明について工夫をお願いします。
130	・バリアフリーについては十分な検討をお願いします。車椅子の方が聴きに来てくださいますが会場に行く手段がないため、楽屋にあるエレベーターを使っての案内をせざるを得ませんでした。エレベーター又はエスカレーターはあって当たり前の設備ですので、習志野のシンボルホールとして相応しい設備をお願いします。
131	・女子トイレについては良く長蛇の列を見かけます。休憩時間内に消化できるのか心配してしまうことがありますので検討ください。この件は蓄積されたデータがあるかと思しますので、それに基づいてください。
132	・リハーサル室、小ホール(モリシアホール)の件ですが、現状のホール建設時の目的に沿っての使い方をしたことがありません。利用しにくいからです。広さの問題や音響、設置場所、日常の練習に使えない等が理由です。先日行ったミューザ川崎シンフォニーホール音楽工房、市民交流室のフラットな会場、音響も良く使い勝手が良いようなので是非参考にしてください。単独で日常的に貸し出ししていただければ利用度は増すと思います。
133	・パイプオルガンですが、“音楽のまち習志野”を象徴するホールに設置設置されていたものですから再設置してもらいたいと思います。大切な財産だと思います。再建工事中は新庁舎のロビーに飾りとして仮設置・保管はできないかと考えますが、可能なら検討願います。
134	・その他はホールの再建設基本構想案に従ってご検討ください。やり直しの効かない一大事業かと思います。“音楽のまち”習志野市の将来がかかっていると思いますので、よろしく願いいたします。 重ねて申し上げますが、住みやすい、魅力あるまちづくりのためにもJR津田沼駅前に、現在と同程度またはそれ以上の音響を保持した誰もが使いやすいホールを再建していただけるよう強く要望いたします。
135	<p>1. どこに建設するのか 習志野市は「JR津田沼駅南口」と「旧庁舎跡地」の2択で基本構想を検討しています。しかし、この2つで良いのでしょうか。私は、もう一つの候補地として「新習志野駅前」を提案するものです。 市を代表するようなホールを建設するのであれば、それは市の将来像と結びついたものでなければ意味が大きく減ることになります。魅力ある催し物があるたびに来習者が増える。主催事業が活発になることで広い意味で“習志野らしさ”に富んだ催し物とそのホールで観られる。貸しホールにしても、ターゲットをどう定めるかでその場所が大きく変わる、素敵なホールの存在が、そのスポットより魅力あるものに変えていくのです。 こういう視点から新習志野駅前を検討してみましょう。 かつて習志野市は2001年度に策定した「都市マスタープラン」において「JR新習志野駅周辺」を「JR津田沼駅周辺」と並べて2大「広域拠点」にあげ、JRの2駅を市の中核としてまちづくりをする展望を持っていました。それが2015年策定の改訂版では、広域拠点はJR津田沼駅周辺のみとなりました。 その理由について市側は、「社会経済情勢の変化に伴う土地利用の実態と今後の見通しを踏まえ」たものと述べていますが、こうした変化の背景に、当時の市長と現市長が、新習志野駅前に、ギャンブル施設であるポートピアの建設を認めた結果、新習志野駅前に甚だしいマイナスイメージが生まれたことがあることを認めない、極めて無責任な態度であると言わなければなりません。同時に、そうしたマイナス要素を乗り越える活力や魅力がこの土地には有ることを見いだせなくなった、余りにも将来への展望を欠いた結論だと思われまます。</p> <p>千葉県と東京都を直結するJRの路線は、総武本線、京葉線、常磐線の3線のみですが、そのうち2つが習志野市を通っている利点は計り知れません。京葉線は、現在首都圏の中で最も活力のある路線と言われています。国とJRが進めている羽田空港乗り入れ計画3路線の一つが、りんかい線の「東京テレポート駅」を経由して「新木場駅」で京葉線に乗り入れ、成田空港へ繋げることを展望していることや、来年度、イオンモールのすぐ前に「幕張豊砂駅」が開業すること、「舞浜駅」の混雑解消のためのホーム延長、「南船橋」駅前に大規模なイベントホールが建設されるなど、大きな波が来ています。この波に乗り遅れない計画が習志野市側で必要です。立派なホールがあり、魅力的な演目が載せられて、しかもその場所が駅を降りればすぐの場所にあるとなれば、明るい展望が生まれるでしょう。快速の停車も実現するかもしれません。 習志野市内で見ると、新習志野駅は京成バスでJR津田沼駅と直結しており便数も相当あります。袖ヶ浦経由の便も以前からあり、最近では谷津経由の便も生まれました。幕張本郷駅と直結する便もあります。さらに有利な条件として、建設中の333号線が開通すると習志野警察署前から市役所通りを経て新習志野駅まで結ばれることになり、念願の習志野市を南北に結ぶバス路線もできる可能性大です。全習志野市民にとっても新習志野駅が身近な場所になることは間違いのないでしょう。 しかし、これまで、ギャンブル施設としてマイナスイメージになっていた「ポートピア習志野」が廃業したことで、この地点に対する市民の不安が一掃されたことは、大変大きなことです。</p> <p>ホールの建設場所は駅前広場を使用します。1階(地上)は現在のロータリーを含めてバス、タクシー等の乗場とし、2階以上を駅ビル形式で建設。2階は店舗、3～5階を文化ホール、楽屋、練習室、6階を小ホールとするというものです。 現在、この土地は道路や広場として使われており、市側は「未利用地ではない」と言って対象の地域にしていけないようですが、新宿駅のように、鉄道路線の上に巨大な建物ができる時代です。既存利用の用途変更・再利用に関して、知恵を絞るのがいわゆるお役所の最も得意とする分野ですから、頑張ってもらいましょう。 しかも、建設後は、いまのバス・タクシー乗り場やロータリー、広場はそっくり残る訳なので、不利益を被る関係者は皆無です。 ホール以外にも、これまで吹きさらしだった広場で、降りしきる雨の下、極寒の冬、灼熱の夏にバスを待っていた市民には大きなメリットがもたらされるでしょう。バス利用が増えることも予想されます。駅からショッピングモールへのアクセスも天候を気にすることなくできる点で、商店の皆さんにも大きなメリットが生まれます。 ホールに併設する店舗は既存の店舗と競合する事が無い業種として、大型書店、喫茶店などとする事により、市民にも業者にも喜ばれるものとなるでしょう。 駅とのアクセスをより進めるため、4番ホームの中心部付近に、駅ビル2階へ直接出入りできる自動改札口を設置することも検討したいと思います。 また、将来的な秋津運動公園の整備を念頭に、駅北口から357号線を跨ぐ歩道を設置することも、同時に行います。 ここで、習志野市側が提起している「JR津田沼駅南口」「旧庁舎跡地」との比較を行ってみましょう。</p> <p>「JR津田沼駅南口」は、JRのターミナル駅直前であり、アクセス的には申し分ないでしょう。これまで永年にわたり使われてきたことから、関係者間での認知度も高いと思われまます。 しかし、最大の問題は、習志野市がほとんど主体性を持ちえないということです。土地も野村不動産のものであり、建設時期、規模なども野村主体で進められます。将来の建て替えについても、建物の耐久年度とは離れて、野村の営業主体の判断でなされる可能性が大きいものと思われまます。費用面でも大きくなることは確実です。 「旧庁舎跡地」は、土地は市のもので、市が全ての権限を持って建設が進められるというメリットは大きいですが、JRの駅から離れているというデメリットは極めて大きいでしょう。「京成津田沼駅」からは徒歩7分とされていますが、JRと京成では利便性に大きく隔たりがあり、他市から来客に多くを望むことはできません。</p>

習志野文化ホール再建設基本構想(案)へ頂いた御意見

通しNo.	意見
136	<p>2. どういう規模・内容で作るか</p> <p>現在の習志野文化ホールは、収容力1,475席、延床面積7,083㎡と、中途半端な規模である上に、一番問題に感じられるのが、多目的ホールとして、式典にもコンサートにも、オペラ・バレエにも使えるように、プロセニウム、緞帳、オーケストラピット、パイプオルガンを備えていたことです。豪華絢爛ということで、当時としてはやむを得ない面もあったでしょうが、ホールに関する研究が進んだ現在では、残響1つとっても多目的ホールとしてつくられたホールは、使いづらいといわれ、敬遠される傾向にあるようです。</p> <p>ホールは楽器と同じで、使い込んでいくにつれて音が馴染み、味が出てきます。ヨーロッパの名門ホールが、古くなって使い勝手などが悪くなくても、良い音ということで評判が高まっていくのは、用途に合った設計がなされているためでしょう。</p> <p>残念ながら習志野文化ホールは、逆に年々声価が下がってきています。今は廃刊となってしまいましたが、『ぴあmapホール・劇場・スタジアム』という分厚いガイド本があり、再末期の2003年版では全国1,205の施設を掲載、そのうち1/3強は、写真や座席表付きで詳しく紹介しているのに対して、残り2/3弱は、それぞれ1行で紹介されるという格差があり、習志野文化ホールは後者でした。このガイド本が出始めたころは、習志野文化ホールも写真・座席表付きで紹介されていたのですが、改築にあたって重要なポイントは、今の時点に限った近視眼的な希望やニーズにもとづいてコンセプトを決めるのではなく、50年後、100年後も、良いホールだと評価してもらえるものにすべきだということであり、そのためには多目的ホールはまず第一に欠格となるでしょう。</p> <p>私は、「音楽の街・習志野」にふさわしく、コンサート専用ホールにすべきだと考えます。これまでの使用実績をみると、さまざまな用途があるのは事実ですが、学校での使用を含めて、音楽関係が多いことは間違いなく、市民の要求にもこたえられるでしょう。</p>
137	<p>次は規模です。ホールにあって、竣工はあくまでスタートに過ぎず、自主事業や貸しホールを含めて年間・長期の計画を練り、ランニングコストをまかなっていかねばなりません。昨今は、全国的に大型のホールは豪華さを競って建設されてきた面があり、パイプオルガンの設置は当たり前になるなど、激しい競争の場となっています。後述する自主事業の面でも、大ホールでの集客は難事業であり、持て余しているところも少なくありません。</p> <p>それを考えると、現在の規模を踏襲したり拡大するのではなく、半分程度に縮小した規模(収容力600～800席)で建設するのが妥当であると考えます。</p> <p>一方、舞台の方はバックヤードを含めて広めに取る必要があります。これにより、標準的な2管編成のオーケストラ(50～80名ほど。モーツァルトやベートーヴェンの作品はこのくらいの規模)であれば演奏できます。</p> <p>また、同時に建設する小ホールは、100～150席。寄席・演芸、合唱などができますし、パーティーも可能です。</p> <p>客席や舞台裏、ホワイエなどについては、ホール設計・建設の歴史の中で蓄えられてきた知見を活用することが大事ですが、習志野市民が身近に感じている文化ホールや市民ホールの教訓をフルに活用する必要があると思います。</p>
138	<p>文化ホールに関しては、バリアフリー対応がなされていないことが最大の問題の1つです。また、一般の来場者についても、退出時の動線の弱さがあります。最大1,500人も人が一斉に動くわけですが、上手・下手それぞれ1つの階段に集中するため、これまで大きな事故が起こらなかったのが不思議なほどです。</p>
139	<p>プラッツ習志野市民ホールは、2019年12月竣工という最新の施設であるため、さまざまな知見は十分に取り入れられているものと期待していましたが、大きく裏切られました。</p> <p>ホールの内部は、縦の動線が2つ、横の動線が1つしかなく、しかも狭いために退出時は混乱し、非常時対応は難しい。建物のエントランスとホールのホワイエがきっちり区別されていなくて、関係ない人がホワイエにどんどん入ってきて混乱する。ホールの入り口が最前部に一つしかないため、開演後は催し物に影響を与えるため、ホールの出入りが無理。非常口が不備。舞台進行上一番大事な下手側ドアに小窓が開けられていない(私をはじめ抗議の声が数多く寄せられた結果、改善された)。舞台監督・ステージマネージャーが采配を振るう下手袖に、必要なモニター、インカム、作業台などがいっさい用意されていない(これも多少改善されたが)。楽屋が一つだけで、出演者が男性・女性といった場合は無理などと、まるで素人が設計したかのような惨状でした。</p> <p>私が関係者から聴取したところでは、下手側ドア小窓は、設計にはあったものが、「そんなものは要らない」という横からの口出しによって無くなってしまったと言います。文化ホール改修の際には、こんなことが決して起こらないよう、市内在住の指揮者、歌手、ピアニスト、元公民館長など外部有識者を加えた委員会を作るなど万全を期する必要があります。</p>
140	<p>3. 運営をどうするか</p> <p>さて、新習志野駅前、衆知を集めて立派な文化ホールが落成した—これはほんの第1歩に過ぎません。文化ホールをどう活用し、市民の豊かな生活を発展させていくかは、大きな力を要することです。これまでJR津田沼駅を降りて帰途につく時、文化ホールの方面を見ても、照明がついていない真っ暗な空間が広がっているのを見ると、とても寂しい思いをしました。そういう思いをしないうちに、周到な計画を立てなければなりません。</p> <p>ホールには施設の維持・管理などとても重要な業務も多々ありますが、ここでは省略し、一般企業でいう「営業」活動的な側面について検討してみたいと思います。これは「貸館事業」と「自主企画事業」とに分かれますが、大切なのは自主企画事業だと考えます。日本中のほとんどのホールが取り組んでいると思いますが、年に数回というところが多いのではないのでしょうか。</p> <p>この点で模範となるのが東京都武蔵野市です。武蔵野市から受託する文化施設の管理運営を行っている公益財団法人武蔵野文化事業団が、同市内にある8つのホール・劇場を中心に活動を行っており、同団が作っている「友の会」には、広く首都圏から会員が集まっています。かつて私も家族共々長く会員でした。</p> <p>管轄する施設のうち、メインとなっているのは武蔵野市民文化会館小ホールです。かつては月間10本以上の企画を組んでいました。現在はコロナ禍ということもあって少なくなっていますが、それでも月数本のコンサートなどが行われています。特筆すべきなのは、一流の芸術を低廉な価格で提供していることです。日本は欧米諸国と比べて文化芸術予算が極めて少ないことも影響し、コンサートやオペラなどの入場料がとても高いことが指摘されていますが、武蔵野の場合、サントリーホールや東京芸術劇場などで催される同じ芸術団体の公演が、半額程度で提供されています。若手アーティストだと1,000円くらいで鑑賞できる公演も多々ありました。</p> <p>武蔵野市民文化会館には大ホール(1,252席)もありますが、自主企画事業でもっぱら使われているのは小ホール(425席)です。先に習志野文化ホールを中規模の600～800席で作るべきと述べたのも、こうした例を考慮したうえでのことです。</p> <p>また、地域文化の活性化を図るため、市民団体等の舞台芸術活動に対する援助という事業もあり、市民自らが芸術文化の創造活動を援助することで、地域社会の発展と豊かな市民生活の形成に寄与しているのは学ぶべきことです。</p> <p>この「市民団体等の舞台芸術活動に対する援助」という事業は、「貸館事業」と「自主企画事業」のボーダレスな位置づけになりますが、同様のものとして、「フランチャイズ制」があります。公共性のあるプロの団体と提携し、ホールを本拠地とし日常の練習に使う見返りに、芸術団体側は、地域への様々な貢献を行うというものです。日本フィルハーモニー交響楽団と杉並公会堂、新日本フィルハーモニー交響楽団とすみだトリニティーホールが良く知られています。これにより、オーケストラ側は平日昼間のホールが空いている時間にホールを自由に使える一方、行政側は小中学校への出前演奏、公開リハーサルへの住民の参加などお互いがメリットを享受し合えます。</p> <p>習志野市においても、千葉にある色々な芸術団体とどのような関係が築けるか、面白い課題でしょう。</p> <p>こうした事業を行うためには、熟達したスタッフが必要です。最近では、大学の芸術系コースで、ホールの専門家を養成するところもありますから、それらを含めてスタッフの構成を検討することが必要です。</p>
141	<p>4. まとめ</p> <p>以上、3つの論点に絞って意見を述べてきました。パブリックコメントにはさまざまな意見が寄せられ、一致することはあり得ないと思いますが、それを成案にまとめる際、さまざまな意見の中に含まれている知恵を拾い上げ(折衷案にするということではない)、100年後にも「先人たちは素晴らしいものを残してくれたね」と喜ばれる習志野文化ホールを造ってほしいと願っています。そのために、大切な諸点をまとめてみます。</p> <p>・ロケーション 行政が持っている権限やノウハウを活かせば、不可能と思われるような場所に新しいものを造ることも可能でしょう。さらに、文化ホール単体だけでなく、周辺施設・環境を含めて考え、新しい都市プランといったものを考えるくらいの展望を持ってほしい。</p>
142	<p>4. まとめ</p> <p>・ホール これまでのものにこだわらず、現在何が最良とされているかを念頭において検討することが大切です。中途半端な多目的ホールは、2020年代の現在は望ましいものではありません。他分野の人から異論が出ることは覚悟して、一番必要な目的に特化した専用ホールを造っていただきたい。また、ホールだけでなく、バックヤード、楽屋、ホワイエなどにも同じく力点を置いてほしい。</p>

習志野文化ホール再建設基本構想(案) へ頂いた御意見

通しNo.	意見
143	<p>4. まとめ ・運営 ここにこそ最大の力を注いでほしいと思うくらい大切な仕事です。委託業者に丸投げするなんてことが無いようにお願いします。 市の職員を募集する際に、最近、芸術関係の大学で行われている博物館・美術館の学芸員に準じた専門職を系統的に採用し、他の一般職のように数年周期で異動させず、長期にわたって文化ホールに専念できるようにすることも必要です。</p>
144	<p>音楽ホールの再建場所としては、現在同様、JR津田沼駅前を希望します。 理由は、何より駅前であることです。乗降数が市内で最も多いのは明白で、習志野市の中心と言っても間違いのない場所です。 また近年の奏の杜エリアの開発により若年層が増えていることも、津田沼駅周辺の再開発は急務だと感じます。 旧市庁舎跡地に比べて利便性の高さは明らかです。単刀直入にいうと旧市庁舎エリアは京成線からも遠く、坂の途中でもあることから利用者のことを考えると妥当とは感じないです。車椅子を使う利用者なら尚更です。再建をして利用しないのでは意味がありません。 現状の利用頻度は高いとはいえないと思いますが、単なる音楽ホールではなく、幅広い利用が可能はものにすべきだと思います。 近隣では南船橋にアリーナ、千葉駅ほぼ直結で市民会館の計画があります。 現状と変わらないただのホールならば、この2強の利便性には勝てません。 再建するならばここにしかない独自性は絶対必要だと思いますので、ただどっちがいいですか？の施設ありきの話ではなく、先々の街づくりを視点に考えていただきたいと感じます。</p>
145	<p>1. 再建設ありきというような構想案になっていますが、現段階での「再建設」は時期尚早であり、まずは現有施設の部分的な改修・修繕等で対処する方法を検討すべきと考えます。以下にその理由やホールに対する思いを列挙させていただきます。 (1)現在のホールは竣工が1978年で、まだ40年余りしか経っておりません。この規模のホールとしては他所と比べてもあまりにも短命と言わざるを得ません。 (2)2018年から1年間休館し大規模改修工事を行なって、2019年にリニューアルオープンした直後に再建設の検討がなされていることにも違和感があります。 (3)私は開館以来、演奏会の主催者側として、また客の立場としても継続的に利用させていただいていますが、ホールとして老朽化とバリアフリーへの対応が不十分ということに対しては、どちらも大きな問題は感じておりませんでした。 (4)音響としても全く問題はなく、もう20～30年は部分的な修正等で使用継続可能なのではないかと思います。素晴らしいパイプオルガンも無くするのは大きな損失だと思います。 (5)音響、居住性、広さ、付帯施設、トイレ、バリアフリー設計、駐車場、搬入動線、立地など、欲を言えばきりがありません。かける金額に比例してよいものはできますが、財源や場所の広さには限りがあり、再建設したとしてもすべてが理想通り改善されるのは難しいと思われます。 (6)市民としても不必要または拙速な投資は避けていただきたいのが本音です。 (7)今の文化ホールを壊してしまうのは本当にもったいないと思います。 2. 万一再建設となった場合、場所は市内では現在のJR津田沼駅前以外はあり得ないと思います。 この場所であるから主催者としても聴衆としてもホールを利用する価値があると考えます。東京や横浜などからもアクセスがよいため、お客様も演奏メンバーも利便性が高く集まりやすく、人気があるのだと思います。旧庁舎跡地では利用価値が格段に下がるのは明白と思われます。</p>
146	<p>駅南口の再開発、習志野文化ホールの再建にそもそも反対です。建物の老朽化等の事情はあるにせよ、近年の市の方針は、市民を蔑ろにしています。このままでは、習志野市、津田沼地区に住む利点が無くなります。 文化ホールについては、近隣の音楽活動に励む子供達の為にも、何年も閉鎖することのないようにしていただきたい。空白の期間を作ることなく、市役所跡地でどこでも代替ホールを完成させてから、既存ホールを閉鎖するのが筋と考えます。</p>
147	<p>1. 内容 ア. 再建設の敷地候補地について、私は、現在の場所(民有地)に再建設すべきと考えます。 2. 理由 ア. 現在の場所は、JR津田沼駅前で、市内で一番発展している場所であり、習志野文化ホールは市内で一番発展している場所にあるべきと考えるため。(旧市庁舎跡地に、新しい習志野文化ホールを建設しても、今後、京成津田沼駅周辺がJR津田沼駅周辺並みに発展するとは考えづらいため。) イ. 習志野文化ホールの用途は、従来通り、市主催の諸行事の他、民間による文化・芸能・芸術など多種多様な収益事業の開催が可能であるべきと考えるため。 ウ. 上記イに関連して、運営上(経営、収支)の見地から、近隣住民(都内を含む)にとっても、旧市庁舎跡地に比して交通の利便性の良い、現在の場所の方が良いと考えるため。 エ. 再建費用について、旧市庁舎跡地(市有地)に再建設する場合は約80億円、現在の場所(民有地)に再建する場合は約120億円で40～60年毎の建て替えとなる、という話を聞いたことがあるが、市の財政規模(2022年の予算額約630億円)から、40～60年毎の約120億円の支出は年間2億円～3億円の支出に相当し、十分対応(民間からの事業収入を含む)が可能であると考えられるため。 3. 効果 ア. 現在の場所に再建設することにより、新たな市のランドマークとして、将来の習志野市の発展に寄与する効果が期待できる。 4. その他 ア. 余談であるが、地方の都市などで、立派な公共施設を建設したが、利用者が少なく、宝の持ち腐れとなっているとの例を見聞きする。 イ. 旧市庁舎跡地(市有地)に再建設すれば、安価で済むという理由だけで建設され、結果、宝の持ち腐れとなることを危惧するものである。</p>
148	<p>JR津田沼駅南口(民間商業施設内)案を支持します。 ▼理由 駅からの近さは何にも替えがたい価値があるから。 ・東京から近く、交通至便な駅(津田沼駅)から歩いて移動できる場所にある大規模文化ホールは、それだけで価値があります。私は松戸市出身ですが、森のホール21は最寄り駅が便利とは言えない駅(八柱・新八柱駅)でありながら、さらにその駅から歩いて20分ほどかかり、げんなりします。観覧後、興奮冷めやらない思いで食事やお茶をしようにも、施設周辺はまっくら。せまい歩道を歩いてようやく駅にたどり着いても、ローカル駅周辺では気の利いた店もなく、土地勘が無い人であれば、とりあえずターミナル駅まで移動するでしょう。 ・文化施設は人が集まる施設です。その施設が、人が集まりにくいところにあると、やがて施設の稼働率は下がり、その先に刻まれる歴史も少なくなります。文化ホールは市役所のような、「必ず無くてはならない」というものではありません。便利でなければ、人の足は遠のきます。興行も減り、悪循環になるでしょう。 ・近隣地区の同レベルの施設も、駅からの距離、東京からの距離では習志野文化ホールに及びません。千葉市や船橋市といった大規模市に挟まれた小さな習志野市ですが、音楽で全国区であり続けられるのは、この習志野文化ホールのおかげといっても過言ではありません。大きなイベントもこなすこの舞台で、習志野や近隣市の子供たちは同じ舞台を踏んできました。この経験は全国どの子供たちも経験できるものではありません。それもこれも、「駅から近いからアクセスしやすい」「歩いて安全に行ける」という要素があってこそです。 ・今後、高齢化が進み、高齢者の免許返納が叫ばれ、一方でバス本数の維持が難しくなってくるであろう社会において、「人の移動」は困難になることが予想されます。そのような社会において、「アクセスのしやすさ」は何にも替えがたい価値です。習志野市が、他市と違った特長を維持し続けるためにも、人が集まる文化施設は、多くの人が集まりやすく、いつまでも人でにぎわう中心であってほしいと切に願います。</p>

習志野文化ホール再建設基本構想(案)へ頂いた御意見

通しNo.	意見
149	<p>習志野文化ホール再建にあたっては旧庁舎跡地への設置がよいと考えます。 津田沼に約4年ほど住んでおり、来月から習志野市民になります。南口周辺は頻りに利用しますが、文化ホールを利用したことはございませんし、「音楽のまち」といったコンセプトの認識はありませんでした。 モリシアは津田沼駅、習志野市の魅力度向上、ブランディングにあたってのフラッグシップとなる施設であり、今回のJR津田沼南口の再開発における最重要課題と認識します。より多くの習志野市民が気軽に利用／交流でき、近隣市民の流動性も上がるような公共施設の設置や商業施設の誘致を希望します。 例えばテレワークとしての利用も可能な近代的な図書館兼公民館の設置や、送迎保育／一時保育ステーションの運営など日々利用される施設を設置する方が有用で魅力度向上に資すると思慮します。 モデルシティとしては、近年注目されているおおたかの森や、亀戸クロック、武蔵小杉、二子玉川など、若年夫婦、子育て世帯に対し訴求力のある街づくりを行なって頂けると幸いです。 「音楽のまち」と言ったコンセプトは非常に共感しますし、本コンセプトで習志野市にエッジを立てていくのは非常に嬉しいことですが、音楽＝フェスと言ったイメージがあり、近隣の幕張メッセや蘇我スポーツ公園からすると見劣りする印象です。 またローカルの商店においてもライブハウスやクラブ、ジャズ喫茶なども特にないため、本コンセプトを推し進めるのであれば、街全体で音楽に纏わるストーリーを形成することが肝要と考えます。 そういう点では、ワイガや通りは「音楽のまち」の再構築に向けたポテンシャルを秘めたローカル感があり、旧庁舎をフラッグシップに、京成津田沼からワイガや通りの活性化を図るのも一案と考えます。加えてモリシアには広場兼イベント会場のようなオープンなスペースを設けるとよいと考えます。</p>
150	<p>1. 候補地について 2つの案が出されておりますが、JR津田沼駅南口はJR総武線の千葉駅と船橋駅の間に位置し、駅からも近いこと、また新京成線新津田沼駅から徒歩でも集まれる距離であること、谷津、秋津・香澄、袖ヶ浦、大久保方面をはじめ、バス路線もいくつも入っております。また、津田沼駅北口は、大久保・三山・実籾方面や船橋方面の路線も多く入っております。JR津田沼駅南口は習志野市の表玄関の位置にあることから、習志野文化ホールは、文化・芸術活動の中心的な役割を果たす施設として、最も好位置にあると思います。 建設に当たっては、現習志野文化ホールは、昭和53年(1978年)に建設・竣工したということですが、その後、大規模な改修も行い、現在もまだ十分使える施設だと思えます。50年使用として、あと5～6年はそのまま使用して、その後に建替えることにして、その間に、事業計画を十分に検討することが適切かと思えます。 JR津田沼駅は、習志野市民や船橋市民が非常に多く利用しており、一旦、地震や大規模災害・停電等によって電車が動かなくなった場合、津田沼駅周辺で行き場のなくなった乗降客が大量に発生した場合、習志野文化ホールが大規模な受け入れ先施設として考えられます。もう一つ、千葉工業大学が隣にあるが、非常時には千葉工業大学の講堂が体育館が利用できるような提携を結んでおき、提携が成立した際には、JR津田沼駅にも連絡をしておき、いざという時の対応策としておくことが望まれます。</p>
151	<p>2. 施設の規模・施設内容について どのようなコンセプトのホールにするかを考える上で、習志野市民の意向が重要となりますが、一方で、習志野文化ホールを利用してきた利用者の意向も参考にすべきと考えます。「文化ホール再建設検討に関するヒアリング」では38団体43名の方々からヒアリングを実施していますが、現状の1,475席と同程度の席数を希望している意見が多かったのではないかと思います。大体1,300～1,500席くらいの規模が良いのではないかと思います。「観客数別公演数実績」のデータをみると、1,200人未満が65%、1,200～1,349人が16%であり、その合計で約80%を占めていますが、市内の小中学校の学校利用や市内の音楽団体の利用などは、これらの規模に該当するケースが多いものと考えられますが、文化ホールの運営を考えた場合には、商業利用も一定程度開催できるようにしておかないと、採算面で厳しくなるものと考えられます。それらを総合的に考えると1,300～1,500席程度が妥当な施設規模ではないでしょうか。</p>
152	<p>①バリアフリー化は客専用エレベーターの設置や車いすでの客席までの動線確保が必要ではないか。</p>
153	<p>②トイレは、トイレ数の増加や多目的トイレの設置が必要だと思います。</p>
154	<p>③座席の前後間隔が狭いという指摘は私も同感です。あと5cmか10cm広げるだけでも、だいぶ違うのではないのでしょうか。</p>
155	<p>④搬入出口は設計時に、専用エレベーターを設置することと、トラックが複数台で搬入可能な設計が望まれます。</p>
156	<p>⑤全国的なコロナウイルス感染症がまん延して、入場数の制限などが行われましたが、空調設備の設計・換気機能のウイルス対策も必要な事だと思います。</p>
157	<p>最近、幾度か演奏の練習会場が習志野市には少ないという話を聞きました。確かに小中高校音楽室は別にして、市内で、管弦楽のパート練習や小規模の音楽を演奏できる施設が市内には少ないですね。文化ホールの建替え時に、小規模な練習場か小規模な演奏会場が複数併設されていると、音楽活動のレベルアップに繋がるのではないのでしょうか。</p>
158	<p>3. 音響設備とパイプオルガン ホール全体の空間設計によって、音響はずいぶん違うものになると考えられます。現文化ホールの音響の水準は高いと評価されているとのことですので、ワンスロープの方が良いのではないのでしょうか。</p>
159	<p>3. 音響設備とパイプオルガン パイプオルガンはほとんど利用されていないのかと思ったら、年間29回程度利用されているということでした。利用されていないということなら維持費を考えると廃止しても良いのかなと考えていましたが、一定の利用頻度があるならば、残しておいても良いのではないかと思います。市内でも溝口先生が演奏しているのをお聞きしたことがありますが、音楽科の先生や演奏家を育成することも必要だと思います。千葉県下には、パイプオルガンはこの文化ホールにしかないということでしたので、それがこの施設の特徴の一つになるものと思います。</p>
160	<p>4. 緞帳 緞帳はあった方が良いのではないのでしょうか。演劇等では必須ではないのでしょうか。多目的を考えると必要だと思います。</p>
161	<p>5. 財政面の検討 第2回習志野文化ホール再建設基本構想等検討専門委員会で、候補地での建設事業費の試算が公表されています。 ①JR津田沼駅南口：複合施設延床面積9,000㎡と仮定した事業費116億8083万1800円 ②旧庁舎跡地：複合施設建築面積最大4927.84㎡、駐車場4,500㎡(150台程度)緑地面積1,125㎡を想定した事業費79億2000万円 旧庁舎跡地の方が市有地に建設するため建設費が安くなるが利便性を考慮すると、JR津田沼駅南口を候補に推しました。いずれにしても、80億円から116億円の試算が出されていますが、市庁舎建設でも100億円を超える事業費がかかっており、更に100億円前後の事業費をかけることになるので、5～6年をかけて検討すべきだと思います。JR津田沼駅南口に建設が決まったとしても、旧庁舎跡地は、習志野市役所周辺の貴重な資産ですので、売却して事業費をねん出することは反対です。</p>
162	<p>1. 敷地候補地は旧庁舎跡地が適当と考えます。 理由は以下の通り ①市の構想を自由に反映でき、広く内容を検討できる。 ②市は京成線に沿って長い範囲で拡大してきたので、市民にとっても利便性がある。 ③文化ホールと併せて他の文化的施設の建設も検討可能 ④その結果として、次世代以降に文化的財産として残せる ⑤バリアフリーを優先的に拡大でき、障がい者だけでなく、今後急増する高齢者に優しい施設になる。</p>

習志野文化ホール再建設基本構想(案) へ頂いた御意見

通しNo.	意見
163	2. 自由意見 今の市民ホールで運営裏方として参加した際に、エレベーターが使いづらい。エスカレーターも中途半端であり、障がい者に優しくない施設であった。建物の一部利用となると、上記問題が残るのではないかと。
164	習志野文化ホールは市民がより多く利用できるものでなければなりません。大久保地域、実籾、東習地域など京成電鉄を利用している人が多く、旧庁舎跡地へ建ててほしいです。
165	文化ホールだけでなく、市民が利用できる集会室など併設してください。建設費用が少しでも少なくなるのがとても大切なことです。
166	文化的施設が少ない習志野市にとって、文化ホールはとても大切な施設です。 ①何より市民が利用しやすい場所に、利用しやすいものにしてほしい。旧庁舎跡地は、より多くの市民が利用するのに便利で、習志野文化ホールは市庁舎跡地へ建ててください。
167	②ホールと一緒に、公民館や市民が集える施設をつくってください。
168	③市の財政で建てるのだから、安い費用でできるようにすべきだと思います。市有地に建てるべきです。
169	①習志野文化ホールの思い出 人參畑の広がる、JR津田沼駅前に、習志野第一中学校を移転して、サンペデック・習志野文化ホールができた。仕事で疲れた心をいやしてくれた音楽。学校の行事。子どもたちの吹奏楽の演奏を聴きに行く。成人式。小学生だった子どもを連れて、昭和の歌姫「美空ひばり」を聴きに行った。友達とベンチャーズを聴きに行く。帰りは銀座アスターなどで食事。高島屋でお買い物。楽しかった事、色々思い出がよみがえります。駅からの帰りの買い物も便利です。駅からの眺めも、素晴らしいデザインです。 ②駅前の土地の殆どが野村不動産のものですか？ 夫の母校の跡地が野村不動産のもので、習志野市のものではない事を、最近「市議会だより」で知りました。どうしてこのようになったのか？いきさつを詳しく広報してください。習志野市の土地がいつの間にかなくなるような気がします。恐ろしい気がします。 ③駅前に独自に習志野文化ホールを建ててください。 公園や、駅前のバス停留所の上も使いデザインすればよいと思います。 再開発ビルと、習志野文化ホールを合築にした場合、再開発ビルの権利者の意向によって、文化ホールを40～60年ごとに120億円程度をかけて建替えなければならない事態が、延々と続くとの事、それを考えれば独自に管理した方が良いでしょう。 企業は利益を優先します。駅前に「駅の正面、天空の我が家」とうたい、大きなマンションが建つことでしょう。文教都市習志野のイメージはありません。 ④津田沼駅前は習志野市の顔です 電車だけではありません。バスも全て津田沼駅を向いています。非常に交通の便が良いのです。 ⑤旧庁舎跡地はバスの便が悪いです。 学校関係、社会教育関係、音楽の演奏会等、集客に難があります。 ⑥旧庁舎跡地は売却、貸付を行わず、市民に必要な施設を建設してください こちらは市民の共有財産です。防災センター、郷土資料室、大音楽練習室、美術館、会議室、図書館分館、特別老人施設等を有効活用してください。
170	先ず疑問だらけなのですが、再開発についての市民説明会は開かれたのでしょうか？ 広報とかで案内が有りましたか？ 私も合唱をしていますが、昨年末唐突に聞きびっくりしました。市民は蚊帳の外で何かと進められた感が拭いきれません。最近では広報の《明日のハーモニーが開く街》と言うのも白々しく感じます。文化ホールを潰すなら、もうそのキャッチフレーズは使わないで下さい。そもそも各学校、各団体がこんなに活発に活動しているのは全て文化ホールが有ってこそ。老朽化を理由にしていますが、もっと古い千葉、市川はリニューアルでしのいでいますし、船橋も古いままです。今は元の場所か旧市役所跡地の2択とか。そこまで行く前にもっともっと市民にはっきり説明して頂きたかったと言う思いに尽きます。とりあえず、今年いっぱい休館で2年寝かせて？取り壊す意味が全然分かりません。それも全て市民に広報等で最初の経緯から細かく説明して下さい。多分習志野高校吹奏楽部、一中、谷津小のオケ、各中小学校の吹奏楽とか、もう今迄の様な活動は絶望的です。40数年続いた第九演奏会、各団体の演奏会も出来なくなり、習志野は音楽の無い街になります。パイプオルガンの有る素晴らしいホールを作った音楽に造詣の深かった市長は、未だに音楽関係者から賞賛されています。それを無くしてしまわれる方々は…本当に残念です。嘆きばかりで、具体的な案はなく、このパブリックコメントの趣旨ではないかも知れませんが、音楽を愛する一市民の愚痴話としてお聞き下さい。宜しくお願い致します。
171	2. 基本条件の整理(1)ホールの設置理念・特徴 オ、本市の考え方 ・利用者からの音の響きに対する評価や、利用者の6割以上が市民という利用状況から3つの目標の一つにある『育み・学び・認め合う「心豊かなまち」』、「生涯学習推進のまち習志野」の実現に重要な役割を果たしていると考えます。 ・資料「市立小中高等学校の受賞歴」より、市内小中高の音楽への取り組みが全国で高く評価されていると思います。これは、卒業生にとっても、市民にとっても大変嬉しいことであり、習志野市の教育を広くアピールできる事柄であると考えます。文化ホールを利用した発表会、演奏会等の実施により、音楽関係者等の士気を高めていると考えます。 ・小学校からクラシック等に触れる機会も多く、管弦楽クラブの成果をクラスのお楽しみ会で披露してくれたり、大きな行事では管弦楽の演奏を聴く機会が多く、子どもの時は苦痛に感じたこともありましたが、題名、作曲者は覚えていなくても知っている曲が多くあります。子どもたちが小さいときから音楽に触れる機会があることは、大人になっても身近に感じる事ができると思います。習志野市の特色として継続してほしいと考えます。 ・ZOZOマリンスタジアムでの高校野球決勝戦では、習志野高校の吹奏楽の美爆音に感銘を受け、母校の応援を忘れるほどでした。市内に流れる音楽も小中高と連携した取り組みができないかと思えます。(先日は、鷺沼小学校の児童の声でした。このような形で市民に身近な形になるとよいと思えます)
172	【設置理念】 ・「市民の多様な文化芸術活動を支える多目的機能を備えた、誰もが利用しやすい活動の拠点及び交流の場」として、市民の誰もが利用しやすい施設を望みます。『誰でも』という言葉が使われていますが、ターゲットを絞ることで施設の仕様も決まってくると考えます。
173	(2)基本方針 ・建設費、維持・運営管理費等を十分に検討して頂き、次世代への過度な負担がない文化ホールを望みます。
174	3.施設計画の検討(2)課題の解消・改善 エ、搬入出口の改善 ・現在のJR津田沼に建設するか、旧市庁舎に建設するかにより搬入出口、駐車スペースは異なると考えます。 ・現状の課題を踏まえ計画の検討してほしいと考えます。
175	(3)現水準の保持～現ホールの評価が高く同程度の水準の整備が求められる項目 ウ、舞台装置 (パイプオルガン、オーケストラピットを除く) ・パイプオルガンの使用実績を見ると過去5年間の平均利用回数が29回となっており、検討していく必要があると感じます。 ・文化ホールを利用する機会がほとんどない立場として、今回の再建築基本構想を拝見し、パイプオルガンがあることを再確認しました。建設初期は、パイプオルガンへの関心が高くても、現在はその存在すら忘れていました。

習志野文化ホール再建設基本構想(案) へ頂いた御意見

通しNo.	意見
176	(4)多機能ホール化 ・「反射板の吊り位置」とありますが、「音響反射板」と記載したほうがわかりやすいと思います。反射板で検索をすると車、自転車、工事関係の備品が紹介されています。資料:習志野文化ホール及び類似施設調査に基づく考察では、「音響反射板」という表記になっています。
177	(6)引き続き検討が必要な事項 イ、パイプオルガン ・メンテナンス事業者へのヒアリングでは、「これほどの規模のパイプオルガンの移設は国内でも過去に例がないのではないか」とあるが、音楽機材を取り扱っているヤマハ株式会社等にヒアリングをかけた方がよいと思います。 ・教会、キリスト教系大学にあるパイプオルガン(サイズはわからない)の事例がいくつか公表されています。 ・移設費用、維持管理費用等と利用頻度や、次世代への負担を鑑みて、優先順位を決めていく必要があると考えます。 ・パイプオルガンを残していくのであれば、クラウドファンディングの活用を望みます。
178	オ、オーケストラピット ・5年間の利用がないということをもみても設置しないことに賛同します。
179	4. 敷地候補地の検討 (1)敷地候補地の検討 ①JR津田沼駅南口(民間商業施設との複合施設による現在地での再建設) ・「市民の多様な文化芸術活動を支える多目的機能を備えた、誰もが利用しやすい活動の拠点及び交流の場」という位置づけであれば、JR津田沼駅でなくてもよいと考えます。市民でJR津田沼駅にアクセスしやすいは谷津、谷津町、奏の杜の住民であり、必ずしも行きやすいとは思えません。 ・千葉県の都市再開発の方針等、民間開発による高層マンション、商業施設の建設計画では、景観、美観を考慮して建設してほしいです。 ・文化ホールが旧庁舎跡地になったとしても、習志野市の玄関としての魅力が伝わる場、習志野市魅力発信拠点になってほしいと思います。 ②旧庁舎跡地 公共施設若しくは民間への賃貸部分との複合施設による市有地での再建設 ・京成津田沼駅は習志野市の中心的な場所にあり、アクセスがしやすいと考えます。 ・京成津田沼駅から徒歩7分程度とありますが、駅は一部バリアフリーではない箇所があります。演奏者の楽器の運搬等には、課題があると感じます。 ・乗用車の利用は増加すると考えられるため、駐車スペースの確保は検討していく必要があると考えます。乗用車が増えることで近隣の道路の渋滞等も十分に調査してほしいと考えます。 ・駅から旧庁舎までに商店街がないという記述がありますが、人通りが増えれば状況も変化すると考えます。
180	・4月24日の千葉日報では、老朽化が進む千葉市民会館(千葉市中央区)の建て替えで、千葉駅に隣接するJR東日本千葉支社跡地(同)に移転新築が決定したと掲載されていました。1500席程度の大ホールや300席程度の小ホール、リハーサル室などを備えとする基本計画を策定し、2027年開業となっています。近隣各市の取り組み状況、計画等の情報収集を行いながら、習志野市の文化ホールの位置づけを明確にしていくことが重要かと思えます。
181	・東京に近い立地の文化ホールの位置づけを検討するのを感じます。近隣の自治体のホールだけではなく、東京にある音楽施設の立地、規模を考え、習志野市に必要な文化ホールの再建築基本構想に期待します。
182	・ピアノの種類が多いと管理は大変だが、利用者にとってはホールを選択する際に選ばれる可能性があると感じたことがあります。
183	・畑道を歩いて通ったなかよし幼稚園、冬の体育の授業は畑道のマラソンが恒例だった習志野市立第一中学校、そんな学生時代を過ごし、文化ホールができた後は西城秀樹さんがサンペディックから生中継をした歌のベストテン等、いろいろな思い出があります。変わりゆく街並みを見ながら、習志野市が誇りに思える場となればと願っています。
184	1. 音楽ホールとしての評価と位置づけ 習志野文化ホールはJR津田沼駅前に立地する利点を生かして、稼働率が比較的高く多くの団体が利用していますが、比較的利用が少ないのが、一流のプロの演奏家によるコンサートです。 この点で比較参考になるのが、西の中央線沿線の武蔵野市民文化会館で、クラシック音楽の一流演奏家のコンサートが頻繁に開催され、放送等で全国的に周知されています。 その理由は、東京都心から離れていても、地域周辺にコンサート愛好者が多く、集まりやすいからです。 習志野文化ホールも、西の中央線沿線に対する東の総武線沿線の中間に位置する駅前にあって、市川市と千葉市の中間地点、東京駅から30分と集客しやすい立地です。 そこに「パイプオルガン」を持つ音楽ホールがある有利な招致条件をフルに活用するという視点を生かして、更に一流のプロの演奏家による水準の高いコンサートが招致できると思います。そうすることによってホールの集客力と稼働率、ひいては「魅力」は更に高まると考えられます。
185	そこに「パイプオルガン」を持つ音楽ホールがある有利な招致条件をフルに活用するという視点を生かして、更に一流のプロの演奏家による水準の高いコンサートが招致できると思います。そうすることによってホールの集客力と稼働率、ひいては「魅力」は更に高まると考えられます。
186	2. ホールの運営形態の改善による採算性の向上 従来の習志野文化ホールは「公益財団法人」の組織で運営されてきましたが、これまでの直接間接の接点をもった経験から、受け身のお役所的な運営形態、組織体質を感じてきました。 この点で比較参考になるのが「JCOM浦安音楽ホール」で、今回の構想案資料でも取り上げていますが、それはホールの大きさや、種類のことで、運営形態については言及されていません。このホールはJCOMがネーミングと運営の権利を譲受して、民間ホールとして運営されていますが、会員制を導入して固定収入の確保を図る、レジデントアーティスト(カルテット・エクセルシオ)を招致して固定客を増やす、マンスリーニュースレターを発刊してファン層を惹きつける、等々の工夫が際立っています。習志野文化ホールも再建設後は運営形態を再検討して、民間活力を導入し、公的費用の抑制と採算性の向上の両面から、工夫の余地があると考えます。
187	3. 安定的な利用団体の増加、確保 千葉県北西部には、数多くの音楽団体が活動しておりますが、習志野文化ホールは地理的に総武線沿線の中央部駅前にあって、集客力が期待されますので、それら音楽団体の活動拠点として、招致が期待されます。 具体的には千葉県唯一のプロオーケストラ「千葉交響楽団」の定期演奏会の開催招致、総武線沿線出身のプロ演奏家の「習志野シンフォニエッタ千葉」をレジデントアーティストとして招致、千葉県で最も歴史あるアマチュアオーケストラ「習志野フィルハーモニー管弦楽団」もレジデントアーティストとして、その定期演奏会以外に伴奏オケとしての活動を従事する、等々が考えられます。 再建設の立地は、現在のJR津田沼駅前の再開発地として、検討の対象になっている「旧市役所跡地」は、諸々の特長、利点を失うものとして、候補地から外して頂きたいと考えます。
188	【財政に関わる質問】 質問1 公益財団法人習志野文化ホールは2015年に習志野市へ移管されたわけですが、固定資産管理台帳に記載し資産カルテは作成されていますか？探しても見当たりませんでした。カルテが作成されているなら内容を開示してください。また、公共施設総合管理計画や個別計画にどのように扱われていますか？再建される場合、これまでの公益法人時代の記録や関連資料の扱いはどのようにどこに保存され活用されますか？

習志野文化ホール再建設基本構想(案) へ頂いた御意見

通しNo.	意見
189	質問2. 公共施設再生事業では企画検討の段階からライフサイクルマネジメントを重視していますね。習志野市では文化ホールの検討に際して両案のライフサイクルマネジメントの基礎であるライフサイクルコストを試算しましたか？してあるなら、2案の比較検討資料の概要を開示してください。検討されなかったならなぜなかったのか説明してください。
190	質問3. 初期投資(イニシャルコスト)が仮に100億円の場合ライフサイクルコスト(LCC)はいくらになると推定されますか？おおよその試算は可能と思いますが、どのような数字になりますか？今後の文化ホールを検討するさい財政的視点から最も重要な判断情報と思います。
191	質問4. 両案の主な構造の構成比、例えば、建設費、維持管理費、運営費等を開示してください。
192	質問5. 公共施設再生事業の50%以上は学校施設です。公共施設は大幅に圧縮せざるをえませんが、提案されている「文化ホール」のLCCは小学校建設費用のLCCと比較すると何校ぐらい建設費に匹敵しますか？この試算は「文化ホール」建設の可否に大きな影響を与える重要な情報であると考えます。
193	質問6. 文化ホールの「目標使用年数」を何年と考えますか？なぜそのように考えるのですか？理由を説明してください？大久保総合施設のなか「市民ホール」の目標使用年数は何年ですか？LCCをベースに公共施設を管理するには目標使用年数が不可欠です。法定耐用年数は税制上の減価償却目的の年数であり、現実の資産管理には適していません。個別公共施設再生事業のマネジメントには目標使用年数が前提になると思いますが、行政としてはどのように考えられますか？
194	質問7. 長期的財政シミュレーションを実施されたと考えますが、検討中の2案は財政的に総合的に持続可能な範囲にあるという判断になりましたか？判断基準を教えてください。
195	質問8. 人口減少社会、高齢者社会はすぐ目の前に来ていますが、その前提をどのように考慮しましたか？
196	質問9. 大久保の総合施設建設は最近行われたわけですが、新設した大久保「市民ホール」のライフサイクルコストとどのような違いがありますか？項目別に概算金額と構成比を示してください。主な項目の違いの理由を挙げてください。
197	【経営概念に関する質問】 質問10. 検討中の「文化ホール」と「市民ホール」(新公民館)の大きな構造上の違いと建設費、管理費、修繕費の違いを一般市民に分かるように説明してください。さらに、両方とも「文化施設」だと思いが「ミッション」にどのような違いがありますか？
198	質問11. 「文化ホール」は公共施設のうちでも特殊な建物の構造を有しており通常の建物とはかなり異なると思いますが、どのような点が通常の建物と異なり、市民の意見を聞きたいと考えていますか？特に考慮すべき項目を挙げなぜその項目を重視するのか理由を説明してください。
199	質問12. この文化ホール再建2案で市民サービスが大きく改善されると予想されるサービスはなんですか？
200	質問13. 「文化ホール」のような音響学的にも高度な高額知識を必要とする企画では専門家の参加が不可欠と思いますが、どのような専門家が参加していますか？仙台市のように音響額の専門家の講演を開催する計画は検討されましたか？音響の質を重視する立場の方は多いのですが、音響学的に音質を理解できる市民はすくないと考えます。仙台市のような専門家による説明会の開催を検討すべきと考えます。
201	質問14. 実際にこの施設を利用するのは第一義的には市民ですが、基本構想を検討する企画段階にどのような市民が参加しましたか、市民の中で最も利用している小中高の生徒や音楽担当の先生方は参加していますか？参加していないならなぜ参加させなかったのですか？
202	質問15. 基本構想検討会に財政の専門家は参加していましたか？しているなら肩書を知りたいのですが？
203	質問16. 習志野市には工学系の大学、千葉工大、日大工学部、等がありますが、方向性を検討する企画段階に参加していますか？どのような在り方で参加していますか？彼らに期待する知見はどのような項目がありますか？
204	質問17. 習志野文化ホールは40数年利用してきましたが、過去の記録のデータ分析はどのように行いましたか？解析結果の評価を開示できますか？建設計画に参考にすべき事項は多いのではないのでしょうか？PDCAサイクルのCAはあらゆる規格のベースとなります。CAIに関する分析や説明が基本構想には不足しています。
205	質問18. 文化ホールは千葉県内にもたくさんあります。資料もWEB上で見られます。関東圏でも多くの文化ホールがあります。経済が右肩上がりの時代には各自治体が文化ホールを建設しましたが、経済が将来的に右肩下がりの傾向を示している現時点で“自治体文化ホールとは何か”あらためて市民やステークホルダーとともに見直してみるまたとない機会であると思われれます。様々な理由で、再建しないケースも市民の意見にはあるとおもいます。行政が基本構想の作成過程では、文化ホールを再建しないという意見は出なかったのですか？
206	質問19. 再建しないときにどのような影響がでると行政側は考えますか？影響を最小限にする提案はありますか？例えば、大久保公民館(市民ホール)の構造や設備機機能を追加補修するなど、あり得るとおもいますが、行政の考え方を示してください。
207	質問20. 将来は文化ホールの再建を中止する自治体もかなり出るのではないですか、特に財源調達の困難からあり得ると考えるのです。他市に比較して習志野市には公共建物が多いとの指摘が公認会計士の指摘もあります。習志野市として“再建をしない”案も検討してほしいと思います？シミュレーションの一つとして検討してください。
208	質問21. 行政側としては他の多くの自治体が再建すると考えるならその理由を説明してください。
209	質問22. 文化ホールに関する論文や研究はかなり多く公開出版等されています？ 習志野市独自の研究調査は「習志野文化ホール及び類似施設調査に基づく考察 株式会社シアターワークショップ 平成 31 年 3 月習志野文化ホール及び類似施設調査に基づく考察株式会社シアターワークショップ平成 31 年 3 月」以外にありますか？株式会社シアターワークショップは現在の文化ホールの経営に参加していましたか？習志野市との関係を教えてください。シアターワークショップの仕事<劇場・ホールをつくる>がわたしたちの仕事です。構想づくりから設計・施工のコンサルティング、管理運営計画の策定や開館の準備作業。そして、開館後の劇場運営、イベントの企画制作に至るまで…。劇場・ホールに関することは、なんでもやっている総合的な劇場コンサルティング企業です。とHPIに書かれています。習志野市文化ホールの建設・経営・企画等で今後どのような関係を結ぶ可能性がありますか？
210	質問23. 音響学といった工学的な側面を重視する意見は理解できますが、どのよう音響が習志野市にとって最適であるかの判断は非常に難しいともわれます。どのようにして市民の意見を問うのでしょうか？行政の考えを聞かせてください。和楽器の演奏も音響選択のさい検討事項になりますか？株式会社シアターワークショップに匹敵する音響専門の法人と習志野市は関係がありますか？

習志野文化ホール再建設基本構想(案)へ頂いた御意見

通しNo.	意見
211	<p>質問24 パイプオルガンは西欧音楽の中でも特別の位置にあるといえるでしょう。楽器として1億円をこえるものはほとんどないでしょう。千葉県の文化ホールでは本格的なパイプオルガンを持っているのは習志野市だけです。貴重であると考えます。習志野市の文化ホールのミッションや経営概念形成上にパイプオルガンをどのように位置づけることができるか行政は提案する必要があると考えます。行政の考えをお聞かせください。</p> <p>イニシャルコスト100億円前後、LCCで400億円前後にもなる施設の中の備品として考えるなら1億円はそれほど大きくないと言えるかもしれません。わたくしの意見では文化ホールを再建するなら慎重にパイプオルガンの意味と価値を判断してほしいと思います。パイプオルガンのオルガニストを目指す習志野市の学生に場を開放してほしいと思います。</p> <p>千葉県にはパイプオルガンはかなりの数ありますがほとんどキリスト教の聖堂に設置されています。これらのパイプオルガンはパイプ数も少なく小型です。本格的にパイプオルガンを臨場感あふれる場で聞かれる機会は身近にはありませんね。</p> <p>貴重な楽器ではないでしょうか。世界に羽ばたけるオルガニストが習志野市から誕生することを願っています。</p>
212	<p>質問25. これまで文化ホールを利用してきた学生たちの企画段階から参加していますか？ぜひ学生たちの考えや思いを聞いてほしい。</p>
213	<p>質問26 習志野市の文化ホールの特徴づけをどのように考えていますか？可能性としては多くの提案があると思いますが、行政の考えを聞かせてほしいのです。特にソフトの面でITC時代新時代にふさわしいアイデアはあるのか？例えばVR鑑賞ができる機能、座席指定リモート鑑賞もあり得るだろう、さらに世界のどこからでも臨場感あふれる参加ができる機能、PeatixやLiveDemoなどの活用もあり得るでしょう。やるなら真剣に取り組み世界から着目される文化ホールにしたいものです。行政の皆さんの新しい知恵を聞かせてください。実現できるかどうかは後にして、アイデアを出し合ひましょう。</p>
214	<p>質問27 文化ホールとは習志野市にとって“なんなのか”考えなおしてみる重要な機会貴重な機会だと思います。検討に際して参考になる論文を小林麻理教授(注 前回の習志野市公共施設審議会の会長)が書かれています(末尾参照)。(論文は2013年1月8日と古いのですが自治体の文化施設に関して本質をついていますし、現在も価値の高い視点が示されていると考えます)</p>
215	<p>質問28 習志野市「文化ホール」ではどのようなアウトリーチを念頭に置いていましたか、その成果をどのようにしましたか、今後どのようなアウトリーチを構想されていますか？</p>
216	<p>質問29 地域の学校(幼稚園、小中高大を含む)、福祉施設、NOP、等との連携はこれまでどのようにでしたか？その成果をどのように評価しましたか？新設する場合どのような改善を考えていますか？</p>
217	<p>【事業評価に関する質問】 質問30 習志野「文化ホール」の事業評は今後どのようにしてゆくのか具体的に行政の考えを説明してください。＜適正な評価指標や基準の構築、専門性を有する公平・中立な評価者の選定が必要＞です。基本構想の検討段階からその方向性を示さなければなりません。</p>
218	<p>1. 敷地候補地 基本構想について、新ホール完成までのスケジュール感が明確に記載されておらず、検討項目にも入っていません。しかし長期間習志野文化ホールが閉館することは、継続的に習志野文化ホールを活用してきた団体や学校には活動の継続面で大きな痛手となります。参考資料5にも示されていますが、市民等の文化芸術活動向上に果たした習志野文化ホールの存在は大きく、とりわけ市立小中高等学校の輝かしい各種受賞歴は習志野文化ホールの存在なしでは達成し得なかったと思えますが、習志野文化ホールの長期間閉館は目標の喪失や発表の場の減少で、先輩から後輩に受け継いでいくべき総合力の低下を招くことが強く懸念されます。</p> <p>基本構想では工期・自由度の項目で現在地は再開事業全体の影響を受け、旧庁舎跡地は工期を市のスケジュールで決定できると記載されていますが、実際の想定はどれくらいになるのでしょうか？私の想像ではありますが、現在地の場合は最短でも7～8年間、社会情勢や事業者の都合で着工が2年ほど遅れる可能性もあり、10年間で習志野文化ホールが無い状況は十分に考えられます。一方で旧庁舎跡地の場合、用途地域(都市計画法)の変更等の調整に2年程度必要としてもこの間に設計は進められますし、建設工事は規模にもよりますが2～3年とすれば4～5年後には新習志野文化ホールの開館が出来るのではないのでしょうか？この8～10年と4～5年の差は大きく市民にとっては、とりわけ子供たちにとっては非常に重要な期間になると思えます。基本構想の中にも明確な差として明記すべき内容と考えます。この建設期間だけをみても旧庁舎跡地への建設を選択すべきですが、さらに下記のような利点があります。</p> <p>1) 習志野市民にとっては交通の便が良い 統計的にも市民利用が多いホールであり、京成電鉄の谷津・大久保・実籾の各駅から鉄道直通で来場することが可能であり、市民にとっては便利の良い場所です。</p> <p>2) 小または中ホール、公民館的施設の複合施設化が容易 習志野市民ホールの音響が悪い訳ではないものの、舞台の高さ、観客の入退場動線、階段状の観客席、出入口仕様が映画館仕様となっており、音楽ホールとしては極めて使いづらい作りで、本来の小ホール機能を果たしていません。そこで、新習志野文化ホールに小または中ホールを併設することにより、小規模の音楽会や発表会の要望に応えると共に、練習場としても利用できることとなります。</p> <p>また、大きい楽屋が必要な公演時の楽屋と、市民からのニーズが高い集会所・研修室等の有料貸出の兼用化など設計と利用環境の自由度が飛躍的に大きくなります。その他は基本構想表5にまとめられている通りと思えますが、財政面では事業費の安さに加え、現在地に比べホールを長期間使用できる可能性が高く、長期的視点の財政面からも旧庁舎跡地が有利となります。市庁舎や消防署を併せた市の行政と文化の中心地を形成し、基本構想の「設置理念」と「基本方針」に合致するのは、旧庁舎跡地への建設と考えます。</p> <p>なお、基本構想では旧庁舎跡地の場合、駅からホールまでの徒歩距離が長くなると記載されておりますが、現在の習志野文化ホールは商業施設到着後に階段、エレベーター、エスカレーター等で4階まで移動する必要があり、実際のホール入口までの到着時間には大きな差はないと考えられます(新習志野文化ホールの立地にもよりますが)。</p> <p>以上から、旧庁舎跡地への建設を強く支持します。</p>
219	<p>2. 事業手法の検討 近年民間活用が国レベルで叫ばれ、実際多くの事業が民間委託となっておりますが、総じて従事者の労働環境悪化や専門家不足によるサービス低下を招いたり、特定の企業に利益が集中したりしています(もちろん例外はあります)。特に文化・芸術分野は、感動や心の豊かさを得たり、自己実現等の生き甲斐を得たりする、人として癒され成長する分野であり、採算性・経済合理性では判断できない分野です。だからこそ国や地方自治体による人作りへの投資が必要な分野となります。</p> <p>プラッツ習志野は果敢にもPFI方式で民間運営となっておりますが、利用料の高騰(2倍)だけでなく、すでに述べた市民ホールの設計上の問題、市との連携不足による予約時の混乱、窓口の人が頻繁に入れ替わることによるスキル低下(間違いが多い)を招いており、市民目線からは決して成功とはいえない状況です。もちろんオンラインでの部屋予約が可能(市民ホールを除く)など、市としても今後取り入れて行くべき要素はあります。</p> <p>以上から、民間の運用手法は取り入れるなどの必要性はあるものの、新習志野文化ホールの建設や運営は市が事業者となる従来手法が望ましいと考えます。基本構想ではデメリットに「事業効率化へのインセンティブが少なく財政負担の増加を招きやすい」とありますが、設計と建設を一体化(設計施工)にすると、効率化が優先され、文化ホールとしての機能・性能さえ削られる可能性があります。むしろ設計と施工を分離させ、良い設計のホールをいかに安く作るかを市が適切に両者をコントロールすることこそ良い文化ホール建設の絶対条件だと思います。</p> <p>民間活用という聞こえの良い響きに惑わされることなく、習志野市と習志野市民の財産を創造すべく、市が中心となって従来方式で事業遂行することを強く望みます。</p>
220	<p>私は習志野フィルハーモニー管弦楽団で30年近くフルートを吹いています。習志野市民ではありませんが、幕張本郷の自宅は習志野との市境が近く、習志野市内の様々なところを利用していますので、ほぼ地元です。そこに習志野文化ホールという優れたコンサートホールがあるのは大変誇らしいことです。習志野市は、谷津小、習志野一中、市立習志野高校と、オーケストラ、吹奏楽では全国トップの素晴らしい学校があり、アマチュアオーケストラもたくさんあります。マンドリンオーケストラもあり、合唱や軽音楽のサークルは数え切れないほどあります。習志野市のキャッチフレーズも「明日のハーモニーが響く街」だったと思います。それに相応しい音楽会場がないというのはあり得ないことです。どうか、いまの習志野文化ホールに負けない素晴らしいコンサートホールを作ってください。</p>

習志野文化ホール再建設基本構想(案)へ頂いた御意見

通しNo.	意見												
221	<p>郊外の音楽ホールである以上、県内の主たるホールの稼働率を見れば一目瞭然で、どのようなジャンルの使用であっても交通の利便性が第一で、現在地での建て替えが、習志野市の文化への貢献することは自明と考えます。</p> <p>特に、音楽のまち習志野のコンセプトを継承することを前提に、クラシック音楽について考えた場合、施設面ではパイプオルガンを移設することは必然で、音楽ホールとして質の高い残響を持たせることも求められると考えます。(例えば、床を木材にして、壁面にも木材を多用するなど)</p> <p>一方で、ポップスや各種イベントへの使用も考えると残響をコントロールする設計も求められると思います。</p> <p>習志野市はスクールオーケストラ発祥の地ともいわれ、伝統という点では立派な音楽の街ですが、以前、習志野シンフォニエッタを主宰しておられる横川氏を取材した際には、津田沼駅前には楽器を持った人がたくさんいるのに、「優れた演奏を聴く」という行動につながっていないとお話されていました。</p> <p>習志野文化ホールがあるおかげで、学校の音楽イベントや部活動で、演奏することや歌うこと、さらには管弦楽や吹奏楽に親しみ、社会人になってもサークルで演奏活動を続けている人は多くいますが、「聴く」部分も含めて生活の中に音楽文化が根付いているかという点と確かにまだまだな部分があるのは、身の回りを見渡しても事実です。</p> <p>新たなホールを建設するにあたっては、音楽を聴いたあと食事を楽しむ、飲食店やその周辺でクラシック、ジャズ、ポップスなどさまざまな分野の音楽に気軽に親しめるという、流れができて初めて真に音楽の街といった雰囲気生まれ、音楽にまつわる人材が集まる街になるものと思います。</p> <p>現在のように、ホールからの回遊性がない状況を解消し、気軽に行けるホールという雰囲気づくりが何より大事ですし、既に習志野市にお住まいになっている様々なジャンルのプロの交流拠点ができれば、後世にかけがえのない財産を残すことができます。</p> <p>これまでの伝統を良い形で発展させる街づくりを切に希望します。</p>												
222	<p>基本構想(案)のP20「4.敷地候補地の検討」について、私は候補地として掲げられた二案について、二者択一の議論にならないように可能な限りご配慮を頂きたい、と考えます。</p> <p>P20～P23を中心にご記載を頂いている内容を拝見し、各種交通機関による交通、駐車場等の利便性、想定コスト、権利関係の調整事項、近隣環境等、候補地検討に当たり各種条件の相違があることを理解しております。私自身は、2015年9月より奏の杜に移り住んだことで習志野市での居住をはじめ、マンション内、地域コミュニティ、消防、小学校PTA等を通じ、習志野市での各種コミュニティ活動に参加することで、二案で示された地域の特性の違いを強く感じております。しかしながら、両地域は習志野市の中心であり、両地域とも将来ありたい姿、ビジョンを、両地域の特性を踏まえて棲み分けて目指していくことで、習志野市の持続的発展により資するものになると考えるためです。</p> <table border="1" data-bbox="172 1080 1999 1448"> <thead> <tr> <th></th> <th>JR津田沼駅南口</th> <th>旧庁舎跡地</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>交通利便性</td> <td>習志野市外部からの交通利便性が高い。今後その特長を更に進化し、習志野市の玄関口、習志野市の商業の中心としての機能を発展させる。</td> <td>習志野市全域からの交通利便性が高い。今後その特長を更に進化し、習志野市民がアクセスしやすい、市民の中心としての機能を発展させる。</td> </tr> <tr> <td>収益性／公共性</td> <td>近隣地域の人口密度の高さや習志野市外からのアクセスに鑑み、収益性を目的とした商業利用が中心となる。</td> <td>習志野市中に住む全ての世代、世帯が対象となる市民イベント、市民交流の場を提供する公共利用が中心となる。</td> </tr> <tr> <td>用途</td> <td>習志野市外へのブランド発信を目的に、コミュニティ機能、商業用音楽イベントの為に音響機能、若年層向けイベント、外国人向けコミュニケーションの機能を重視</td> <td>習志野市民へのイベント施設、交流の場を提供することを目的に、学校等の公用音楽イベントの為に音響機能、市民向けイベント、コミュニケーションの機能を重視</td> </tr> </tbody> </table> <p>費用予算の算出以上に、収益予算の算出は困難なように思いますが、市民のための公共利用の側面をとらえると、両案比較による検討は困難となるため、目的と地域・施設の機能を棲み分けて検討を行うことが一案ではないかと考えます。</p> <p>また、候補2案をいずれも短期間で実行する、ということは市財政を踏まえた予算の観点からも非現実的なものであること理解しておりますが、両地域のいずれの特性をも活かす案を、中期の期間を通じ、いずれも実現するような案を検討してはどうかと考えます。</p>		JR津田沼駅南口	旧庁舎跡地	交通利便性	習志野市外部からの交通利便性が高い。今後その特長を更に進化し、習志野市の玄関口、習志野市の商業の中心としての機能を発展させる。	習志野市全域からの交通利便性が高い。今後その特長を更に進化し、習志野市民がアクセスしやすい、市民の中心としての機能を発展させる。	収益性／公共性	近隣地域の人口密度の高さや習志野市外からのアクセスに鑑み、収益性を目的とした商業利用が中心となる。	習志野市中に住む全ての世代、世帯が対象となる市民イベント、市民交流の場を提供する公共利用が中心となる。	用途	習志野市外へのブランド発信を目的に、コミュニティ機能、商業用音楽イベントの為に音響機能、若年層向けイベント、外国人向けコミュニケーションの機能を重視	習志野市民へのイベント施設、交流の場を提供することを目的に、学校等の公用音楽イベントの為に音響機能、市民向けイベント、コミュニケーションの機能を重視
	JR津田沼駅南口	旧庁舎跡地											
交通利便性	習志野市外部からの交通利便性が高い。今後その特長を更に進化し、習志野市の玄関口、習志野市の商業の中心としての機能を発展させる。	習志野市全域からの交通利便性が高い。今後その特長を更に進化し、習志野市民がアクセスしやすい、市民の中心としての機能を発展させる。											
収益性／公共性	近隣地域の人口密度の高さや習志野市外からのアクセスに鑑み、収益性を目的とした商業利用が中心となる。	習志野市中に住む全ての世代、世帯が対象となる市民イベント、市民交流の場を提供する公共利用が中心となる。											
用途	習志野市外へのブランド発信を目的に、コミュニティ機能、商業用音楽イベントの為に音響機能、若年層向けイベント、外国人向けコミュニケーションの機能を重視	習志野市民へのイベント施設、交流の場を提供することを目的に、学校等の公用音楽イベントの為に音響機能、市民向けイベント、コミュニケーションの機能を重視											
223	<p>習志野一中、津田沼高校を卒業した者です。現在も習志野市内の複数のアマチュア・オーケストラの演奏会に出演させていただいております。</p> <p>高校卒業後、大阪府や埼玉県に転居しましたが、習志野出身だと言うと「全国コンクールで日本一になるスクールオケや吹奏楽で有名な、あの習志野!？」と決まって尋ねられました。日本各地で習志野市は「音楽のまち」として知られているのです。</p> <p>自分にとって、そんな「音楽のふるさと」である習志野文化ホールが利便性の高いJR津田沼駅前から移設されるのは、良い事とは思えません。</p> <p>是非、今の場所に新たな殿堂として生まれ変わる事を願っております。</p>												
224	<p>ふだんお金がないと言っておきながら文化ホールは聖域ですか？少子化だし人口が減っていくのにこんな大きなホールを市で作る必要ありますか？東京から28分ならそこに行けばいいんじゃないですか。こんな贅沢なホールを作るお金あるんですか？将来大丈夫なんですか？根拠を教えてください。子どもにツケを回さないでください！</p>												
225	<p>市の基本構想でも「多くの市民に親しまれ続ける施設と位置付けており、「音楽のまち」を象徴する施設として、音の響きを重視した誰もが利用しやすい習志野文化ホールの再整備に取り組むこととしています。」とされており、実際の利用状況から判断しても6～7割が市民が利用しているのが実情であり、市民が利用しやすい位置に建設するのが良いと思います。京成津田沼駅は習志野市民にとっては市内を走る京成線が集結する地域でもあり、旧庁舎跡地を利用するのが最善だと思います。もちろん多目的ホールとしての機能、規模を維持しながら市内各団体が利用しやすいように途中で間地切りできるような工夫あるいは小ホールを作るのも一つの方法だと思います。現在津田沼地域にある唯一の公共施設である「菊田公民館」が老朽化で閉館することも計画されており、公民的機能も併殺されると良いと思います。また当初の財団法人から公益法人そして市へと管理が変遷した経過をみても、自由度が低い形での再建築では、採算が悪くなったことを理由に閉鎖される恐れもあり、市の判断でコントロールできる旧庁舎跡地を活用するほうが望ましいと思います。</p>												
226	<p>市役所跡地に文化ホールを！ モリシアの建替えて習志野文化ホールをどうするか。 私は、市役所跡地に建ててほしい。 現習志野文化ホールは、津田沼駅前で立地条件も良く、知名度も高い。この場所に建設することになれば、建設費等莫大な財政負担を伴い、これからも市の自由ならず、何年か後にはまた建て替えの時期を迎えるのだ。 市役所跡地に建設すれば、市有地であることで、市の自由な発想で建てられ、財政負担も少なくなる。文化ホール以外の要素を加えれば、市民の拠り所として素晴らしいものになるだろう。市役所跡地は京成津田沼から近く、実用や大久保、谷津からも便利だ。必ずしもJRでなくても良い。浦安、松戸なども駅からは遠い。 市内の学校では、文化ホールを会場とした行事も多い。合唱コンクールや定期演奏会など文ホールは無くしてはならない。子どもたちにとっても習志野の中央にある方が便利だ。市有地の有効活用と市民の文化活動支援のため、文化ホールは市役所跡地に建設してほしい。</p>												

習志野文化ホール再建設基本構想(案)へ頂いた御意見

通しNo.	意見
227	<p>現在地における再建設を要望します。 現在の文化ホールは、竣工以来市内学校における文化芸術活動の場であり、興行にも用いられる歴史と格式ある施設である文化ホールで発表することが、学生・生徒にとって大きな励みとなってきたことと思います。 その点で、市民の利用が中心であったものの、著名な歌手、音楽家などが興行してきたことが、習志野文化ホールの価値を高めてきたと言えます。その点で、JR津田沼駅からフラットにアクセスできる利便性は大きな誘因になってきたと考えられます。また、今後少子高齢化が益々進むなかで、都市機能を集約していくことの可能性も考慮する必要があります。交通アクセスに優れ、高層マンションが集積するJR津田沼駅周辺は、文化ホールの候補地として好適ではないでしょうか。コストが高いことが現在地での再建設のネックとなりますが、PFIなど民間のノウハウの活用によりコストを低減するとともに、施設の魅力を高め、収益向上も期待できるのではないのでしょうか。</p>
228	<p>私は、市役所の旧庁舎跡地に文化ホール、郷土資料館、絵画館の複合施設を作るべきだと思います。1～2階は郷土資料館、絵画館、3階は文化ホールを建てるべきです。JR津田沼駅前に文化ホールを建てるよりも費用がずっと安くあがると思います。そこで節約した分を、今の習志野市にはない郷土資料館や絵画館の建設にあて、文化・教育全般をカバーする施設にしてはどうでしょうか。習志野市は文化・教育の発展に金を使うべきです。市民のために作るべきです。 JR津田沼駅前で文化ホールを40年、50年ごとに建て替えるというのは、どこかが儲けるのですか。今の建物は100年以上もちます。 今の文化ホールを40年や50年で解体すると決めたのはどこのどなたでしょうか。地権者である不動産会社でしょうか。建て替えることによって不動産会社や建設会社に儲けがあるということです。そのようなことに市の金を使って良いのでしょうか。</p>
229	<p>現在地での再建設が良いと思います。 谷津小学校に通う娘を持つ母親です。娘は管弦楽クラブに所属し、日々練習に励んでいます。文化ホールでの演奏機会は大きな励みになっています。また、習志野高校の定期演奏会や地域の交響楽団の演奏会も毎回楽しみにしています。生活圏にこのような文化施設があるのは町の誇りであり、習志野市全体にとっても、JR駅前に「市の顔」があるのは価値を高めることにつながっていると思います。 音楽が盛んな学校として、谷津小学校、習志野一中を知っていて、その学区として地域限定で奏の杜周辺に引っ越してきた方も私の周りに多くいらっしゃいます。JR津田沼駅南口の再開発で住民が増え、市の財政にも良い影響があったという話も聞いたことがあります。住民の増加は、町の魅力として近くに文化ホールがあることも理由になっていると思います。昨年、谷津小学校管弦楽クラブは全国小学生のコンクールで文部科学大臣賞を受賞することができました。それでも最近管弦楽クラブの部員は減ってきているそうです。音楽が盛んなまち、習志野市のシンボルの一つとして、現在の場所で文化ホールをぜひ残していただければと思います。よろしく願いいたします。</p>
230	<p>○候補地 諸条件、諸要素を勘案いたしますと総合評価として、現在地とすることに衆目は一致するものと思われま。市内外の交通(人流)の結節点であるJR駅直結であることは、皆が集散しやすく、市外からのアクセスの利便性に他市の同類施設との優位性をも考慮いたしますと何ものにも代えがたいものと考えます。 当市のシンボル施設として、市の表玄関に在ることの意味性もあるでしょう。 市庁舎跡地(旧)は、民間との共同開発として事業コンペより共同事業主を公募し、公民館図書館等の公共施設を取り込んだものとするのが、相応しいものと思われま。施設内容は広く市民の意見(とりわけ地域住民)を取入れたものとすべきでしょう。何より、都市計画的に法的に規制されている用途のものを許可申請を前提に計画すること自体、必然性が薄く無理があります。 事業費の比較では比べられない利点だと思われま。</p>
231	<p>○規模 規模は、計画構想にある程度が結構かと思われま。多少収容力を落としてもロビー、ホワイエ、廊下、WC等の利便機能、動線の十分なバリアフリーを考慮した明快化をはかるべきと思われま。加えて、当然商業施設も取り込んだ複合施設となると思われまから、施設内での連絡動線も一考してほしいものです。</p>
232	<p>○パイプオルガン 当ホールの特徴であり、イニシャル・ランニングコスト、利用頻度等、種々懸案はありますが何とか再設置の方向で検討をお願いしたいものです。</p>
233	<p>○事業手法 現施設の解体から新施設の計画、設計、建設に至るまで、相当に綿密な計画力を必要とされますので、民間事業者と一体での総合的な設計計画力のある設計事務所と組んだ事業コンペを採用しては如何でしょうか。 民間事業者に市の意向が強く反映される体制を探るべきと思われま。再開発施設全体の構成がかなり複雑で難易度の高いものとなると思われまので、それに対応できる設計者も含めた事業体の構成が必定となろうかと思われま。事業計画全体の透明性の担保をも考慮いたしますと設計・施工・管理運営一括方式は採るべきではないと思われま。</p>
234	<p>①再建設の背景について 文化ホールは1978年に竣工し、今年2022年で約45年となる。ホールを中心として複合ビル形式に発展してきたが、文化ホールを含む当該ビルが築何年を経過しているのかも論じる必要性を感じま。2011年の東日本大震災後には1年間をかけて大規模な耐震工事を実施しており、2022年に何故再開発が構想されるのかを明確にするべきではないと思われま。 当初「財団法人」格で運営してきたホールが、35年後の2015年に市へ運営主体が移管されているが、この経緯も明確には語られていません。 さらに7年後に再開発という背景には運営主体をたらい回しにして財政負担を次世代に引き継ぐ問題点も危惧されま。もう一度原点に戻って現状の問題点を洗い出し、今後の財政状況、ホールの利用状況とその向上を図る方策、同県の周辺他市と比べて議員定数、行政人員のスケール等、身近で検討すべき項目は多いと思われま。 また「文教都市習志野」と云われながら周辺での開発は盛んでありながら一方で図書館、公民館の廃止、人口増に伴う小学校等の増設もされず、市民主体の各種運営を民間に委託という方向性も文教都市とは云いがたい状況です。 文化ホール自体は利用面からするとバリアフリー化やエレベーター設置面での不便さは感じられるが、現状での改善計画というかたちで解決できないかも知れまに上に乗せていただきたいと思われま。 なお、文化ホールの再建スケジュールでは、2023年4月閉館で、解体は2025年以降とされ、2年以上も空白期間があります。文教都市習志野の顔である文化ホールが2年以上も空白があるのは誇れることではないと思われま。 文化ホールの利用状況という点では、行政利用の場合は一年以上前から日程確保ができて、しかも使用料は全額免除され、一般利用の場合はどうしても行政利用の二の次というかたちで円滑なホール利用の回転が行われていない状況と聞き及びま。この利用状況の詳細の公開も再建案の中で行うべきと思われま。 資料②では文化ホールの概算建設費として100億円超規模とされていますが、市の取り組みの項で、文化ホール再整備ということも強調しており、建替えありきではなく、現状ホールの改築改善というかたちの場合の予算案も提示していただきたいと思われま。築50年のホールが本当に老朽化なのか、あるいは民間事業者側から要求が強いのかも含め、再度検討する必要性を感じま。</p>

習志野文化ホール再建設基本構想(案)へ頂いた御意見

通しNo.	意見
235	<p>②文化ホール設置のパイプオルガンについて 本構想案の中で多く論じられていないと思われませんが、装置の維持管理費や使用頻度の点から、パイプオルガンは廃止する方向で検討されているように感じますが、全国的に見てもパイプオルガンを設置しているホールは多くない点を鑑みても、パイプオルガンは継続して使用される方向で検討すべきです。特に小中学生への音楽教育の一環として、もっとカリキュラムにも取り入れ、生のパイプオルガン演奏に触れてもらう機会を多くしていく事が大切と思われまます。 そうすることで教育現場でのホール利用も増え、小中学生の情操教育の場として活用の場も広がり、将来的にも豊かな人格を身につける道にもなろうかと思えます。 設置時に約1億円の費用がかかったとのことですが、パイプオルガンは導入する際には設置する建物に合わせて設計するようですから、仮に新ホールへ移転(可能かどうかも含めて)で当初の音色は大分違ったものになってしまうようです。 したがって専門家から見ると、パイプオルガンの移転は基本的にはしてはいけないようですが、どういう方向性になるにせよパイプオルガンは文化ホールのシンボルですので現状の形を維持する方向で存続を、是非していただきたいと考えます。</p>
236	<p>②文化ホール設置のパイプオルガンについて 文化ホール再建案の文面の中で、市の所有面積は全体の7%という点を強調されていますが、利用する主体は市民であり、先に述べた建設費用100億円超も基本は市の税金から、まかなうわけです。そういう意味では一部の事業者等の意向を中心に据えるのではなく、次世代に負担を極力かけずに文化ホールの維持、運営を実施できる方向での再建案としていただきたいと思いますと考えております。 文化ホール再建計画のメンバーの中には、行政、事業者サイドのみならず、利用の直接当事者の音楽関係の人間も是非加えていただきたいと思えます。</p>
237	<p>1. 2015年から習志野文化ホールは習志野市へ移管されたということですが、年間いくらの市の負担金がかかっていますか。記載がありません。損益計算はどうなっているのか。すべて市民の税金です。大事なことです。それをよく考えてもらいたい。 それと運営組織はどのようになっているのですか、説明がありません。運営も大事です。他市はどうなっているのか、前に代表の方が千葉工大のトップの退任された方とか聞いたことがあります、現在はどのようになっているのでしょうか。</p>
238	<p>2. 私は40年以上、習志野市に住んでいますが、習志野文化ホールを利用したよりも、船橋文化ホールを、かなり利用させていただいています。それは、習志野文化ホールよりも、市民に沿った公演が多かったことです。料金や公演内容等です。 船橋文化ホールは映画会も催され割安な年間パスポートで月1回その日3度の上映もあり、又きららホール、勤労会館ホールとの連携された公演等もありました。習志野文化ホールは市民に寄り添った船橋文化ホールを見習うべきです。ただ造ったというハコモノにしないでほしい。市民の意見を無視しないでほしい。</p>
239	<p>3. 京成大久保駅そばにプラッツ習志野のホールがありますが、来られる方はだいたいの方が安全性に不安を持ちます。席幅がせまく通路も壁側にはなく、通路は急で、前の大久保公民館ホールの方が良かったという声が多くあります。公演も高く、少し前に始まったワンコイン公演等以外は行っていません。</p>
240	<p>4. 細かいことが資料①②に書かれていますが、一般の市民の方はわかりません。市民にとって安心安全なホールにすべきです。市民にとって使い勝手のよい、防災を考えた、無駄なものはいりません。 問題のパイプオルガン等も年に数回であれば、維持管理を考えて廃棄も考えるべきです。</p>
241	<p>「音楽のまち習志野」と言われていますが、どういうことでしょうか。 習高、谷津小とかのコンクール入賞の事でしょうか。習志野文化ホールで同公演とかでしょうか。それは、どこも行っていることではないでしょうか。商店街には音楽も流れていません。私には理解できないのです。 市民に習志野文化ホール等町中でも若い方等の公演等を行育てることではないかと思えます。市民の多くの方に幅広く音楽が浸透していることではないでしょうか。 現市長は以前の議会で、旧庁舎跡地については売却して新庁舎及び老朽化した公民館等の費用にあてると述べている。又、旧庁舎跡地委員会では、老朽化した公共施設ならびに社会保障にあてると述べている。この発言は旧庁舎跡地に習志野文化ホールを造る案とは矛盾しているのです。発言には責任を持ってもらいたい。どうなのか。 市は今頃になって、習志野文化ホールをどうするのか言っていますが、長期的な町づくりが行われるか責任があります。前から判ったことではないですか。 市民の財産である。急ぐべきではない。慎重に考えるべき問題です。 いづれにしても市民の意見等が最大事である。形だけのパブリックコメント、市の方針だけでなく、市民会議、市民アンケート等考えるべきである。市民が利用するものである。</p>
242	<p>習志野市民約18万人。大規模な(1,500席)ホールが本当に必要なのか。大規模ありきではない。 今までの利用状況と費用対効果を精査し、規模設定すべきではないか。千葉市や近隣のものと争う必要はない。 身の丈にあった規模で良い。800席規模で小回りの利く、利用効率からは現在地であろう。 本来ならタワーマンション用地に建設すべきで、なぜ民間デベロッパーに私有地を売ったのか、市長及び行政の計画性、土地利用の考え方のまずさに疑問がある。市議会のチェック機能にも疑問か。 もっと、市民にとって最良の施設計画や土地利用計画を考慮した街・施設づくりを望む。経済性も重視すべき。イニシャルコストとランニングコストも、少子高齢化が進む状況にアクセス重視は大きなファクター旧庁舎跡地はアクセスが悪い。市役所は行きづらい。</p>
243	<p>新築単独施設で80万円/㎡。複合施設事例で118万円/㎡との見込みのようですが、使用年数も考えておく必要がある。約1万㎡とすると新築単独施設で約100年、複合施設事例で40～60年。間をとって50年とすると年間の財政負担は、 新築単独施設で80万円×1万㎡÷100年で8,000万円/年 複合施設事例で118万円×1万㎡÷50年で2億3600万円/年となり、1億5600万円/年の差が出る。50年100年の単位で考えると習志野市の人口は現在から大きく減少する中でこの差は大きいと思えます。 6割以上が学校、文化団体など市民の利用であれば、JR津田沼駅前より京成津田沼駅に近い市役所跡地の方が習志野市の住民としては利用しやすいと思えます。 また、菊田公民館が10年以内に取り壊されるとも聞いていますので文化ホールと一体に移設してはどうでしょう。 大災害が起きた時、避難施設としても使えるようにしていただきたいが、防災の本部機能を市役所に置くときは旧市役所跡地に建築した方がその対策が取りやすいと思えます。</p>